

スポーツ学科 専門教育科目

学是 (学則第1条の2)		本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。					
スポーツ学部の人材養成及び教育研究上の目的等 (学則第3条の4)		スポーツ学部及びスポーツ学科は、学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする。	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)	スポーツ学科は、総合的な教養、スポーツ分野での多様な専門知識を身につけ、幅広い教養かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目指す。この基本理念をもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。 【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。 【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。 【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。			
			教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)	スポーツ学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専攻教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。 教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。 【教育内容】 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、スポーツ総合コース、スポーツ教育コース、スポーツトレーナーコース、健康フィットネスコース、スポーツ政策コースの5コースで構成し、スポーツに関する専門的知識、技能を身につけるよう、系統的に科目を配置する。2. 専門教育科目は、「共通科目」「専攻コース科目」「専門演習科目」「スポーツ実技科目」で区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、知識と技能を修得し、さらに両者を実践的に学修できるよう科目を配置する。スポーツに関わる理論知・実践知を身につけ、学年を重ねるにつれてそれらに応用する能力を高められるよう、必修科目と選択科目を段階的に配置する。3. さらに専門演習科目は、3年次より少人数クラスで展開され、4年次に卒業研究に取り組む。これらの科目を通して、国内外において活かせる「協働性」、「社会性」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「礼節とマナー」、「指導者能力」、「課題探求能力」、「課題解決能力」を育む。 【教育方法】 1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。2. 演習・実験・実習においてはグループ学修を取り入れ、協働性を身につけるとともに、自己および他者の課題を発見し、解決する能力を育成する。3. 卒業研究は、身につけた知識・技能・論理的思考力・分析力を活用し、主体的に研究を行い、成果が実を結ぶように個別指導を実施する。 【教育評価】 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。2. 4年間の学修成果は、卒業研究(必修)によって行い、総合的に評価する。			
スポーツ学部のカリキュラム			卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕				
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
共通科目	解剖生理学	1・前	解剖学と生理学は、人体の構造と機能を学ぶ学問であり、両者は統合させて理解する必要がある。効率の良いスポーツ活動を行うために、またスポーツ医学関連分野を学ぶために必要な知識を得ることを目標とし、基本的事項を重視しながら幅広い分野にわたり授業を展開する。ただしスポーツ学部であるので、神経系と筋骨格系に特に重きを置く。	単純に器官や器官系の名称だけでなく、人間を全体像としてみながら、各器官の働きについて相互関係を理解して説明できる。	◎	○	
共通科目	衛生学及び公衆衛生学	1・前	人間と環境(物理的・化学的・生物的・社会的)の相互反応の中に健康と疾病の問題を見だし、その中で解決を図ろうとする現代的な健康施策について、衛生的・公衆衛生的な見地から貢献の保持・増進について講義する。併せて、疫学的研究方法論についても触れる。	衛生学・公衆衛生学に関わる基本理念や用語の理解(健康管理の歴史や予防医学、衛生学、保健統計、地域保健、国際保健、産業保健、学校保健、環境保健)等の内容を理解し、説明することができる。	◎	◎	○
共通科目	スポーツ運動学(運動方法学を含む。)	1・前	スポーツにおける技術は、“理想的な運動”と考えることができ、練習を通して基本原則に叶ったものがそれを達成することができる。多くのスポーツ種目において正しい運動(技術)を行うことは、成果をあげるために重要である。スポーツ運動に対する認識を深めるために、スポーツ運動の本質や特性についての理論を統合し指導現場における教育活動及び競技力向上のための理論を学習する。	1. スポーツ運動の構造を理解し、具体的な運動を挙げて分析することができる。2. スポーツ運動の特性を理解しそれぞれの特性を具体的な方法や動作を表現することができる。3. スポーツ運動の学習における段階とそれぞれの特徴を理解し説明できる。	◎	○	○

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
共通科目	スポーツ指導論	1・前	本講義では、スポーツ指導およびコーチングのための基礎を学習する。指導やコーチングは、スポーツを理念の明確にすることから始まる。スポーツの概念・現状(様相)を十分理解し、その上で、指導法・コーチング法の基礎、さらには教育としてのスポーツなどを考究する。	①スポーツに対する自論を明確に説明できる。②スポーツ指導とコーチングの概念や差異が把握できる。③スポーツ学習についての評価が説明できる。	○	◎	◎
共通科目	スポーツ生理学	1・後	スポーツ運動は筋収縮の総体として発現し、身体諸器官の滑らかな調節と連携により遂行されている。本講義では、スポーツ運動の調節のための生理的变化やスポーツトレーニングの継続による中・長期的変化について学び、スポーツ運動時の生体の適応システムを総合的に理解する。	本講義で学習するスポーツ運動時の身体の生理的変化はたつきや変化、トレーニング効果について記述して説明することが出来る。	◎	○	○
共通科目	スポーツバイオメカニクス	1・後	バイオメカニクスは力学、生理学、解剖学などの基礎知識を活用し、身体運動の仕組みを明らかにしようとする学問である。本講義では基礎となる諸学科の知識の上に身体運動の法則と歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを学び、利用することができるようにする。	スポーツバイオメカニクスの学問分野における専門用語を理解できる。身体運動に関わる基礎的な物理法則が理解できる。歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを説明できる。	◎	○	
共通科目	スポーツ社会学	1・後	現代社会においてスポーツはめざましい発展を遂げている。一方、スポーツは常に社会との関係において発展し、またこうしたスポーツの繁栄の裏側にはドーピングや体罰など様々な問題が潜んでいる。本講義では、スポーツの歴史的発展をふまえた上で、大きく4つの視点「スポーツと教育」「スポーツと経済」「スポーツと政治」「スポーツと現代社会」を設定し、スポーツと社会の関係、そして現代社会におけるスポーツの役割について考察する。	(1)スポーツと社会の関係を理解し、社会学的視座によって批判的に捉えることができる。(2)スポーツや社会の課題を発見し、その課題を解決する道について論理的に表現することができる	◎	○	○
共通科目	スポーツ心理学	1・後	スポーツにおける心理的な問題について指導者の立場、学習者の立場両面から扱っていく。主な内容は、スポーツと動機づけ(やる気)、スポーツ技能の学習と指導、選手及び指導者のメンタルマネジメント、スポーツと発達心理、スポーツと心理臨床についてである。それらの内容を理解することによって、スポーツ実践と指導に役立つ心理学的知見を幅広く学習する。	1. スポーツにおける動機づけ理論について具体例をあげて説明ができる。2. スポーツ技能の学習について「運動学習理論」と結びつけて説明ができる。3. メンタルマネジメントにおける心理的技法の内容を具体例をあげて説明ができる。4. ジュニア期のスポーツ指導についてその意義と問題点について説明ができる。5. スポーツカウンセリングとメンタルトレーニングの違いについて説明ができる。	◎	○	
共通科目	スポーツ医学	2・前	スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ医学の知識は、捻挫、打撲、骨折、脱臼、靭帯損傷などの整形外科的疾患、呼吸循環器系疾患、感染症など多岐に渡る。本科目ではこれら分野に関する概要を説明すると共に、スポーツ現場で求められるスポーツ指導者としての適切な対応について学習する。	①スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ外傷・障害について説明することができる。②スポーツ指導者が知っておくべきスポーツに関連した内科的疾患について説明することができる。③スポーツ活動に関連して発生するスポーツ外傷・障害や内科的疾患に対する適切な対応を説明することができる。	◎	○	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
共通科目	スポーツ栄養学	2・後	健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療する上で運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。本授業は栄養学の基礎知識を修得した後、スポーツ活動時の栄養補給・食事計画など実践的な知識を修得することを目標とする。運動時の水分補給に適した飲料、サプリメント等については、実物例を挙げながら授業を行う。	健康を保つための栄養補給を理解して実践できる。科学的根拠に基づき、競技特性やトレーニングスケジュールに適した栄養補給を実践できる。水分補給について正しい知識を得て、実践できる。	◎	○	○
共通科目	体力トレーニング論	3・前	本講義では一般的体力の向上を目指した、体力トレーニングの基礎を学ぶ。身体の機能や特徴に関する知識をふまえて、トレーニング科学の理解を深めること、さらに実際のトレーニング状況を想定し、トレーニングメニューを作成する際に必要な基礎的能力を養うことを目的としている。	○体力を分類することができる。○各種トレーニングの特徴や身体の適応の効果について説明することができる。○トレーニングを実践するために運動処方の方法について説明することができる。○対象の年代の違いによるトレーニング方法や効果の差異を具体的に説明することができる。	◎	◎	◎
共通科目	発育発達老化論	3・後	スポーツ活動の広がりや、スポーツ指導における対象者の多様化を伴っている。本講義は、この多様化した対象者に対してスポーツ・運動指導上の重要な点、優れたスポーツ指導者の資質として身につけなければならない内容について講義する。発育発達期では年齢段階に応じた身体諸機能の特性、スポーツ活動(運動)が子どもの心身に与える種々の影響について講義する。	○形態の発育について説明することができる。○筋の発育、筋力の発達について説明することができる。○パワーの発達について説明することができる。○発育期の身体的特徴とケガの関係について説明することができる。○中高年の体力の衰えを説明することができる。	◎	◎	◎
共通科目	スポーツの歴史と文化	4・後	現代社会における様々なスポーツ事象の課題・問題点を日本及び海外のスポーツの歴史と文化を知ることによって正しく導き出し、これらの課題解決の方法を模索できるようにすることを授業の目的とする。そのため、授業では、まず、近代スポーツの起源とその成立過程を知る。次に近代オリンピック、プロフェッショナルスポーツ、スポーツ用品産業、学校体育、スポーツ政策などの領域における歴史と特徴を学ぶ。	①体育・スポーツの文化的価値とは何かについて説明できる ②体育・スポーツの歴史と文化を具体的に説明できる③体育・スポーツの歴史と文化に関する課題を見つけることができる	◎	○	○
共通科目	スポーツ統計学	3・前	統計学は小学校の算数以来、身近なところにある学問領域のひとつである。発育発達や公衆衛生等、単なる事象の認識だけでなく統計学を土台として現象理解を求められる分野は多い。競技やトレーニングにおいて、日々の結果(の集合体)がどういった特性を持っているのかを理解する上でも統計学を身につけておくことは大切となってくる。本講義では小・中・高で学んだ統計学を基にして、スポーツにおける統計がどういった意味をもたらすのかを理解し、それを活用できるようになることを目的とする。	1)スポーツ・体育で取り扱うデータの統計処理ができる。2)目的に応じた統計グラフの選定ができる。3)Excelを利用して統計解析ができる。4)統計データの有意性を判断できる。	○	◎	
共通科目	レクリエーション論	4・前	「レクリエーションとは何か」という問いを起点に、レクリエーションの概念およびその現代における意義と課題について理解を図る。自分の人生においてどのようにレクリエーションと関わっていくかというライフサイクルプランの作成や、レクリエーション教室を企画・報告するなどの実習を交えつつ、「行なう」と「支える」の両面の立場から、レクリエーション活動の意味について説明する。	①レクリエーションが現代社会において、そして自分たちにとってどのような意味を持つのかを説明できる。②自分がこれからの人生でどのようにレクリエーション活動を行なっていくのかを考え、計画することができる。③レクリエーション支援者の立場と役割について理解し、自身が支援者となった場合の姿勢や心構えを述べるることができる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
共通科目	トレーニング実習	1・前後	・各種トレーニングマシンやフリーウェイト(特に、ハイクリーン、デッドリフト、スクワット)について、正しい基本動作の修得および注意点の理解を高める。 ・各種エクササイズの主働筋を理解し、自分自身のトレーニング目標(筋量向上、筋力向上、筋持久力向上)に対して、各エクササイズの最大挙上重量(1RM)に基づいたトレーニングプログラムを作成し、実施する。	・自身の目的に応じたトレーニングプログラムを作成できる。 ・各種トレーニングマシンを用いたエクササイズを正しい方法で行える。 ・各種フリーウェイトを正しいエクササイズ方法で行える。 (特に、ハイクリーン、デッドリフト、スクワット)・各種エクササイズの注意点と主働筋を理解できる。	◎	○	◎
共通科目	体力測定評価法実習	1・前後	効率的な体力の向上を目指すには生体からの正確な情報収集が不可欠である。本実習ではスポーツ活動を実施する上で特に必要と思われる体力及び健康生活に必要な体力の測定技法を修得することを目的とする。また得られたデータを統計学的に処理し、体力を客観的に評価する方法を学ぶ。	①体力とはなにかを説明できる。②体力測定(機能・形態)を測定することの意義が説明できる。③各年代に応じた各種体力(機能測定・形態計測)を測定できる。④測定したデータを客観的な指標を用いて評価できる。	◎	○	○
共通科目	救急法実習	2・前後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。また、医師による授業回がある。救急法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的問題に焦点を当てその対処法を学ぶ。具体的には、外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについての講義を受ける。	スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことができる。	◎		
共通科目	テーピング実習	3・後	本講義では、スポーツ現場で多用されているテーピングの有効性について解説し、実際にテーピングの実習を行うことでテーピング「する側」「される側」の両者について体感する。	本講義では、テーピングの有効性について理解するとともに、それに伴う弊害についても理解を深めながら実習を行う。	◎	○	○
共通科目	運動生理学実験	3・前	効率的な体力の向上を目指すには生体からの正確な情報収集が不可欠である。本実習では健康生活に必要な体力、およびスポーツ活動を実施する上で特に必要と思われる体力の測定技法を修得することを目的とする。また実験方法に関する留意点についても学び、より正確な実験データの収集を行う。	①安静および各種作業に各種生理的指標を測定することの意義が説明できる。②各種生理的指標の測定により体力レベルの評価ができる。③各種生理的指標の測定により運動強度の評価ができる。④実験で得られたデータを処理し、レポートにまとめることができる。	○	◎	○
共通科目	スポーツ動作解析法	3・前	身体運動における熟練や練習成果を客観的に分析することがスポーツ指導では重要である。本実習ではスポーツ動作の撮影を行い、身体各部の座標化を行ったのち、「動き」を定量化して、自らが設定したテーマに関する比較結果に関する発表を行うことができるようにする。	平面的な運動を対象とした二次元動作解析の原理を理解できる。ビデオ撮影、座標化、データ分析といった動作解析の手順を理解し、実践することができる。データ分析の結果を図表に示し、そのメカニズムを説明することができる。	○	◎	

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
共通科目	スポーツクラブのマネジメント	3・後	総合型地域スポーツクラブ等の指導者は、単に競技選手の技術や体力を向上させるだけでなくクラブの運営や各種プログラムの企画等のマネジメント能力も大変重要です。本授業ではスポーツクラブでの実務経験を授業に活かして総合型地域スポーツクラブ等の育成に関する社会背景や国のスポーツ政策やクラブの事業特性や戦略等を具体的に説明します。また、クラブのヒト・モノ・カネ・情報を活かした経営戦略等のマネジメントの基礎知識を理解することにより地域のスポーツ振興並びに地域の活性化を目指します。	総合型地域スポーツクラブのマネジメントに関する基礎知識を修得する事により、実際のクラブ運営を実践できる基礎的能力を獲得し、地域の人々の体力づくり、健康づくりや生き甲斐づくりへの貢献や生涯スポーツ振興を通じて地域の活性化に寄与できることを目標とする。	○	○	◎
共通科目	スポーツワークショップ【高齢社会の世代間交流】	2-4・前期集中	少子高齢社会に突入した今日、人々が安定した生活を送るには「健康」をキーワードとして、世代間が交流を図り、互いに理解し助け合うことはその礎となります。そこで本科目においては、健康長寿社会の構築に向けて北九州市で40年の活動実績がある団体「高齢社会をよくする北九州女性の会」の協力を得て、高齢者の生活や健康問題などに直接触れながら、本校学生の資質を最大限に生かして課題解決にあたります。講座は学内での講義と学外での実習から構成されます。	①少子高齢社会について学び、世代間の交流が重要であることを理解できる。②様々なシチュエーションにおいて、個別に健康課題について考えることができる。③運動普及や支援については常に積極的に受け止め、望ましい実践ができる。④社会貢献活動について理解を深め、主体的に取り組むことができる。⑤社会貢献活動についてのルールやマナーを身につけることができる。	○	◎	◎
共通科目	スポーツワークショップ【幼児・児童期の身体発達を探る】	2-4・前期集中	スポーツ教育を学びスポーツを柱に教員を志すものにとって、人の発育発達について十分理解を深め、発達の側面から様々な手だてを構築できることが望ましいと考えます。そこで本科目においては、心身の発達の基礎が形成される乳幼児～児童期までの身体発達の向上に向けた有効的な活動内容や具体的支援について、子どもの「主体性」「発達の側面」などキーワードとした運動遊びの実践から学びます。その為に保育所・幼稚園・小学校にて「遊び」を実践し、さらに体力運動能力を測定してこの時期の身体発達についての理解を深めます。	①乳幼児期から児童期までの発育発達について学び、「遊び」の重要さを理解できる。②それぞれの発達段階に適した「運動遊び」を学び、個別に指導ができる。③体力・運動能力を測定し、結果を読みとり課題に向けて望ましい指導実践ができる。④社会貢献活動について理解を深め、主体的に取り組むことができる。⑤社会貢献活動についてのルールやマナーを身につけることができる。	○	◎	◎
専攻コース科目	スポーツ学概論	1・前	本講義ではパフォーマンス向上を目指した、スポーツ科学の基礎を学ぶ。スポーツとは何か、選手の立場、指導者の立場、観客の立場に立ち、各々具体的な内容を幅広くとりあげる。さらに、解剖学、体力学、スポーツ動作学の基礎的な知識をふまえ、将来スポーツに携わる人材として必要な知見を身につける。	○スポーツパフォーマンス向上に必要な原則を理解している。 ○スポーツ指導者、コーチとして必要な知識を身につけている。 ○スポーツの社会的役割および教育的役割を理解している。	◎	◎	○
専攻コース科目	コーチング各論A	2・前	球技(ボールゲーム)の体系化とバスケットボールのコーチングにおける心得やチーム管理の方法について学習する。バスケットボールの特性、基本的な攻撃・防御の方法について学習し、その上で段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させていく。また、様々な具体的なバスケットボールの戦術を検証する。	1. コーチの心得を理解する2. バスケットボールの基本的な技術・戦術や攻撃方法・防御方法を理解し、戦術の目的を分析することができる。3. バスケットボールのコーチングにおける基本的な事項(チームの管理・練習計画・練習方法等)を理解し、具体的な計画や方法を考えることができる。	◎	○	◎
専攻コース科目	コーチング各論A	2・前	サッカーのコーチに必要な要素を学習し、サッカーの試合で用いる多様な戦術や試合中に選手が行う運動量や運動強度に関する知識を習得する。さらに、試合の分析結果を基に、長期的・短期的な練習計画を作成し、実行するための授業を展開する。	1. コーチに必要な資質やコミュニケーションの方法を理解する 2. サッカーの戦術的知識を習得する 3. 長期、中期、短期の指導計画を作成することができる 4. 試合の分析結果を基に目標を設定し、練習計画を作成することができる	◎	○	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
専攻 コース 科目	コーチング各論A	2・前	スポーツ学概論で学習した内容を基礎として、陸上競技の種目の特性に応じた具体的な指導方法やコーチングのあり方を学習する。また、これまでの研究で明らかにされてきた知見を概観し、基礎的な知識を身に付ける。その基礎的な知識をもとに、具体的なコーチング計画の立案方法を身に付ける。	(1)スポーツ科学で明らかにされた客観的事象を知識として身に付ける。(2)陸上競技の各種目の運動構造を理解し、説明することができる。(3)陸上競技の各種目のトレーニング手段と方法を理解し、指導計画を立案することができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	コーチング各論A	2・前	スポーツ学概論で学習した内容に基づき、ネット型球技であるテニスの種目特性に応じた具体的なトレーニング法やコーチングのあり方について学ぶ。また、他の球技種目と共通する動作や応用できるトレーニング方法について、ディスカッションしながら知見を深める。	○球技スポーツであるテニスの特性を理解する○スポーツの基本動作についての理解を深め、テニスに応用することができる○コーチングの留意点についての知識を身につける	◎	◎	
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2・後	体操競技の指導者として有するべき専門性について学習する。体操競技には数多くの「技」があり、その多くを身に付けなければ競技会に出場することができない。故に、効率的に技を習得させるためのコーチング理論が必要となる。その鍵概念となる、技の「系統性」と「段階性」について、技の構造体系論的立場から理解をすすめていく。	(1)技の構造体系論を理解する。(2)体操競技のトレーニングの方法論を理解する。(3)技の系統性と段階性について例をあげて説明できる。	○	◎	
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2・後	武道や武術に伝承されるコーチングについて学習する。武道や武術などの稽古法をスポーツに活かすコーチングを学ぶ。	剣道・柔道・弓道・空手・合気道など、日本の伝統的な身体運動文化に伝承されているコーチング法を理解することができる。合理的身体動作法を知り、現代のコーチングに応用できる能力を身に付けることができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2・後	本講義では、水泳コーチ基礎理論・競泳競技・コーチの役割と安全管理の3本を柱にコーチングの重要な要素について講義し、トレーニングの意図と目的について検討する。また、水泳は「健康スポーツ」の実践としても行われることから、水泳・水中運動の側面からもアプローチする。	1. 水の特性や各泳法の技術特性を理解する。2. 選手のレベルに応じたトレーニング計画を作成することができる。3. 水泳コーチの役割と安全管理について説明することができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2・後	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、より良い指導を行うための工夫を試みる。本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。更に、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。(バレーボール)	①スポーツ科学を取り入れたコーチング知識を身につけることができる。②戦術・戦略について解説ができる。③コーチングを通じて人材育成の基礎を理解できる。④チームビルディングについての技能を活用できる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
専攻コース科目	コーチング実習	3・前期集中	コーチング各論で学んだコーチング方法について、実習形式でコーチングを体験する。また、コーチングの課題や自らの問題点を考え、よりよいコーチングのための工夫を試みる。実習は、学内外の競技団体において競技力向上を目指した活動を定期的に実施し、専門的な指導者(監督・コーチ)が配置している団体で行うこととする。	①各競技特性を理解したコーチングの実際を理解する ②競技力向上に向けたコーチングの計画的な方法を理解する ③コーチングの課題や問題点を知り、解決法を自ら考える	◎	◎	◎
専攻コース科目	コーチングシステム論	2・後	スポーツにおけるコーチとは、プレーヤー自身が「なりたい」と思う自分に近づくために、その活動をサポートする存在である。また近年では、コーチの社会人としての資質が求められる。その構造化(システム化)は必要なことでもあり、その構築について学ぶ。コミュニケーション、モチベーション、積極的傾聴など、コーチング理論の基礎から学生自身のスポーツ種目に応用した学習を行う。	1. コーチングのシステム化を理解し、自身の種目に応用できる 2. 人間教育としてのコーチングの重要性を理解する 3. コーチ自身が社会の模範であることを理解する	○	◎	○
専攻コース科目	トレーニング計画論	2・前	長期にわたりトレーニングを続けるために必要なトレーニング計画の立て方や、トレーニング効果を評価するための方法について学び、利用できるようにする。対象が一般人ではなく、競技者である場合に特有の問題についても、指導システムという観点からスケジュール、トレーニング内容、指導者など考慮すべき内容について学習する。	トレーニングプログラム作成のための目標設定、トレーニング変数、期分け理論について説明することができる。各種の体力テスト方法と体力テストにより評価される能力の関係を説明することができる。長期的に競技者の育成を行う際に考慮すべき事項について理解し、説明することができる。	◎	○	
専攻コース科目	スポーツ戦術論	4・前	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。スポーツの戦術は、試合で勝利するために個人やチームの持つ能力を合理的に活用し、最高のパフォーマンスを発揮するための方法である。スポーツにおける戦術行動の意義と重要性を認識するために様々なスポーツ種目に共通する指導上の手がかりを学習する。そして、技術や戦術の分析能力、科学的知見、経験等がスポーツ戦術に必要であることを理解し、競技力向上のための技術と戦術の関わりについて学習する。	1. スポーツにおける戦術・戦術行動の意義や重要性を理解し、様々な戦術を分析することができる。2. 戦術行動の前提条件やスポーツ戦術に必要な科学的知見・分析能力・経験等を理解した上で、戦術プランを立案することができる。	◎	○	○
専攻コース科目	スポーツ方法論	3・前	スポーツの競技力向上を念頭に置いたコーチング学の立場から様々なスポーツ種目を対象に方法論を学習する。そのために各種目の競技力構造を十分に理解した上で、競技力養成のための技術トレーニング、戦術トレーニング、体力トレーニング、心的・知的トレーニングの方法について理解を深めていく。さらにそれらの方法論に則ったトレーニング計画や試合準備について学習する。	1. スポーツの特性を理解し、説明・記述できるようになる。2. スポーツ指導方法の理論的な発展について説明できるようになる。3. 各種スポーツの競技力構造について類型化できるようになる。4. スポーツ競技力養成のための方法論について様々な視点から説明できるようになる。	◎	◎	○
専攻コース科目	レジスタンストレーニング実習	2・前	トレーニング実習(1年)の内容を踏まえ、フリーウエイト、トレーニングマシンを用いたトレーニングの方法を学ぶ。特にクリーン&ジャーク、スナッチの基本動作を習得し、より高負荷でのリフティングを行えるようにする。また、トレーニングプログラムの作成、それに沿ったトレーニングの実施と効果の評価という一連の過程を経験し、その実施法を習得することを旨とする。	トレーニングプログラムの作成法を理解することができる。トレーニング効果の評価法を理解することができる。クリーン&ジャーク、スナッチの基本フォームを習得し、一定の重量を挙上することができる。	◎		○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻 コース 科目	メンタルトレーニング演習	2・後	メンタルトレーニング(MT)は、自己の能力を最大限に発揮するために、運動遂行時の精神状態を最適にコントロールするための心理的技法である。具体的にはリラクゼーション技法、イメージの活用、目標設定技法などがあげられる。本授業ではそれらの技法を実際に体験し、自らが体得するとともに、指導場面にも活かしていけることも目指す。またMTの可能性と限界、スポーツカウンセリングとの関連についても触れる。	1. 各種の心理的技法の内容について具体例をあげて説明ができる。2. 自身の競技遂行におけるメンタル面の課題を分析し、学習した心理的技法を日常のトレーニングに活用できる。3. 指導的立場に立ったときのことを想定し、チームあるいは個人選手を対象としたメンタルトレーニングプログラムを立案できる。4. メンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの関係性について説明ができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツパフォーマンス測定実習	3・前	トレーニングの現場では、目標を決め、実行し、それを評価することによってトレーニング効果を明確にすることが求められる。トレーニング科学の発達により、評価すること、すなわち様々な身体、体力、技能要素の測定データを収集することが、現場レベルで容易に行なうことが可能になった。本実習では、トレーニング現場で役立つ測定法・評価法を学び、現場と研究室の橋渡しをできる力を身につける。	1)授業で行なった測定法を実際に実施することが出来る。2)測定法について記述して説明できる。3)測定データを解析し評価できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツゲーム分析演習	3・後	競技スポーツにおける客観的な指標によって競技力やパフォーマンスを評価する必要性が高まっている。本科目においては「ボールゲーム」を対象としてゲーム観察による客観的なデータ収集とその分析方法を演習し、ゲーム分析の意義について理解を深める。授業においては、ゲーム映像の活用と表計算ソフトの利用によって多くのデータを収集した上で、それらを統計的に分析し、結果を競技種目の特性や現状を考慮した解釈による評価方法を学習する。	①スポーツにおける「ゲーム分析」の意義を理解している ②スポーツにおける「ゲーム分析」の基本的な方法を理解している ③分析した情報を解釈し、客観的に伝えることができる		◎	○
専攻 コース 科目	スポーツ栄養指導演習	4・後	スポーツ選手は常に栄養士・管理栄養士から適切な栄養指導が受けれるとは限らない。スポーツ指導者やトレーナーは選手に対して栄養指導や栄養アドバイスができる能力も求められる場合がある。本演習は栄養指導向上のため、実践演習に重きを置くと、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成カリキュラムのテキストに沿った内容である。栄養指導や保健指導の経験を活かした授業を展開する。	スポーツ栄養学を理解し、スポーツ現場で個人または集団に実践的な栄養サポートを行う際に必要な知識と技法を修得することによって、スポーツ選手への栄養指導や助言ができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	地域スポーツ論	3・前	これまで日本のスポーツは職域や学域によって発展してきたとされる。しかし、その形態は限界を向かえつつあり、地域へのシフトが行政的にも計画されている。その政策の一つが総合型地域スポーツクラブであり、地域住民を主体とした形式、非営利での実施をベースにしたものである。授業は担当教員自身がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会に従事(15年)した経験を活かし、展開する。	1. スポーツの歴史的な背景を学び、我が国のスポーツ環境や地域スポーツを理解する2. 地域スポーツの未来について創造できるようにする3. 生涯スポーツについてマネジメントする能力を身につける	◎	○	○
専攻 コース 科目	障害者とスポーツ	3・後	障がいの有無にかかわらず、全ての方にスポーツ指導ができる人材を養成する。障がいの病態と特性を説明し、障がい者が親しんでいるスポーツ種目について具体例をあげながら説明する。また、障がい者のスポーツ大会やスポーツに使用する補装具についても説明する。	障がいを理解し、障がい者が実施しているスポーツを学ぶことで、障がい者と共にスポーツを楽しむことができる。また、障がいの特性に応じてスポーツを創造できるようになる。	◎	○	

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻 コース 科目	スポーツ教育概論	1・後	体育・スポーツ学は、人間が健康で文化的な生活ができるよう身体の育成を目指した学問領域です。しかし近年の科学技術の発展による環境の変化に伴い、ヒトの日常生活から身体活動が極端に減少し、健やかな身体の育成にあたっては様々な課題が生じています。一方、スポーツをする機会や観る機会は増え様々な情報も安易に入手でき、スポーツ環境は豊になったともいえます。このような環境の中で、長寿社会を健康で前向きに生きる糧であるスポーツライフをそれぞれのライフステージでスポーツ教育の観点からアプローチします。	保健体育教師やスポーツ指導者としての豊かな感性や専門性を学修するとともに、現場に通じる積極的な姿勢を身につける為、以下の課題を目標とします。①スポーツの捉え方、関わり方等を深く説明することができる。②スポーツ教育に関しての考え方を深め、それぞれのライフステージ実践できる。③スポーツを取り巻く諸課題について考えを深め、スポーツを通して社会貢献できる。④保健体育教師・スポーツ指導者としての考え方を理解し、実践に向けての行動ができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	学校体育のマネジメント	3・前	教育現場における運動学習を進める上で教師の教授技術は重要である。中でも実際の運動活動の時間(経験)を保障する上でマネジメント技術は最も重要で、準備・後片付けのみならず、授業中の説明や安全管理、学習者の学習意欲促進のための演出(教材、教具、用具、器具等)のため、どのように計画すれば良いのか理解する。	1 運動学習を進める上で教師の役割を具体的に説明することができる。2 運動学習の指導におけるマネジメント理論・方法を説明することができる。3 マネジメントの変化と学習者の獲得された運動学習の成果との関係を説明することができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	学校体育指導演習	3・前	本演習では、体育授業を行うための単元構造図、学習指導案の作成、それらに基づいた模擬授業の実践を行う。第1回目の模擬授業では特に、マネジメント、学習規律、肯定的人、人間関係、情緒的開放といった体育授業の基礎的条件に着目する。第2回目の模擬授業では特に、明確な学習目標、興味を引く内容、教材、場づくり、教師の指導性といった内容的条件に着目する。また、模擬授業の分析、省察を行い、学習指導案の修正、改善を図り、よりよい授業実践につなげていく。	【知識・技能】学習指導要領の目標及び内容を説明でき、単元計画及び学習指導案に活かすことができる。【思考力・判断力・表現力】運動技術の構造や習得過程について理解し、教材づくりに活用できる。【主体性・協働性】教材研究に主体的に取り組むとともに、他者と協働して授業の分析、評価、診断、省察を行うことができる	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	2・前	器械運動の各種目(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)には多くの技が存在するが、それらの技は運動技術的に類縁性を有する技群にまとめられることができる。授業においては、それぞれの技の基本技術や系統性を理解することで効果的に技を習得していけることを理解する。また、補助の方法や練習の場づくりに関する知識を身につけ、指導における実践的な能力を高める。なお、本授業は講義と実技を合わせて行う。	1. 各器械種目の基本技ができるようになる。2. それぞれの技の基本技術を指導できるようになる。3. 補助法について理解し、適切に実践できるようになる。4. 練習の場づくりを工夫することができるようになる。5. 学習段階におけるつまづきとその対処法について理解する。	◎	○	
専攻 コース 科目	陸上競技指導法	2・後	学習指導要領解説にある中学校・高等学校の各種目の技能についての確認を行い、種目の基礎知識や種目の特性に合った具体的な指導方法を学習させることで陸上競技の指導力向上を目指す。また、講義で学習した指導方法を実践し、お互いに技能の習得を目指すことで、指導法の実践力向上を目指す。	① 陸上競技の運動を理解し、説明・記述・実演できる② 陸上競技の指導計画(指導案)の作成ができる③ 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができる④ 指導方法等の学習した知識を生かして、互いの競技力を向上させることができる	◎	◎	○
専攻 コース 科目	水泳指導法	3・前	水泳指導の種類は多岐にわたるが、本授業では初心者・初級・中級・上級レベルとして、小学生・中学生・高校生を対象とした水泳指導法を中心に学習する。初心者水泳指導法としての「水慣れ」から「浮く・進む」から、上級者の4種目をより速く泳ぐまでの指導法を理解するとともに、学習者のレベルに応じた水泳指導の工夫の仕方を習得する事を目的とする。	1. 小学生・中学生・高校生を対象に水泳指導ができる。2. 泳法指導の順序性や学習者のレベルに応じた適切な指導法を実践できる。3. 水泳指導における安全の確保ができる。4. 学習指導計画(指導案)を正しく作成することができる。5. 学習指導計画(指導案)を基に実技指導をすることができる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
専攻コース科目	球技指導法A	2・後	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「バスケットボール」である。	1. 球技運動を理解し、説明・記述・実演できるようになる。2. 球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。3. 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎	○	○
専攻コース科目	球技指導法A	2・後	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の習得を図る。また段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させていく。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、サッカーに焦点を当て、現場での指導方法を重点的に学ぶ。	1. 球技運動を理解し、説明・実演できるようになる。2. サッカーの基礎技術を理解する。3. サッカーの基礎的な守備の方法を理解する。4. サッカーの基礎技術や守備に関する実技指導ができるようになる。	◎	○	○
専攻コース科目	球技指導法A	2・後	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ハンドボール」である。	1.球技運動を理解し、説明・記述・実演できるようになる。2.球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。3.ゴール型球技について、学習指導要領に基づいた指導内容を理解する。	◎	◎	◎
専攻コース科目	球技指導法B	3・後	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、よりよい指導を行うための工夫を試みる。本講義では、テニスを題材に指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。また、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。	①球技(テニス)運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。②球技(テニス)の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。③立案した指導計画(指導案)を基に、テニスの実技指導ができるようになる。	◎	○	◎
専攻コース科目	球技指導法B	3・後	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、よりよい指導を行うための工夫を試みる。本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。更に、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。(バレーボール)	①球技運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。②球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎	◎	◎
専攻コース科目	球技指導法B	3・後	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、よりよい指導を行うための工夫を試みる。本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。また、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。	①球技(バドミントン)運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。②球技(バドミントン)の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎		

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻 コース科目	ダンス指導法	3・前	ダンスの授業への動機づけとなる授業の展開の仕方を、模擬指導を参考にしながら指導者としての在り方を学習する。ダンスウォームアップを指導するための指導技術を習得する。現代的なリズムのダンス、フォークダンス、創作ダンスそれぞれの指導計画(学習指導案)の作成と指導計画に基づく模擬指導を行い、指導技術の習得と向上を目指す。	1. ダンスの特性、学習内容、指導法について理解し説明できる。2. ダンスの指導計画(学習指導案)を作成できる。	◎	○	◎
専攻 コース科目	武道指導法	3・後	学校体育における武道領域の授業展開において必要な単元構想力、授業設計力、教材開発力、実践的指導力の修得を図る。各種武道(剣道・柔道)における個人技能及び対人技能を安全に楽しく習得させるための実技と演習を行う。	【知識・技能】学習指導要領に記載される武道の目標及び内容を説明でき、単元計画及び学習指導案に活かすことができる。【思考力・判断力・表現力】柔道や剣道の技術構造や習得過程について理解し、教材づくりに活用できる。【主体性・協働性】教材研究に主体的に取り組むとともに、他者と協働して授業の分析、評価、診断、省察を行うことができる	◎	◎	○
専攻 コース科目	学校保健Ⅰ(学校安全を含む。)	3・前	発育・発達期にある児童・生徒の健康・安全に関する現代的課題を把握し、ヘルスプロモーションの理念に基づいた健康の保持増進に必要な具体的方策を立案できる資質を涵養する。講義は学校保健の意義と目的から、学校保健の運営・組織活動、保健教育と安全教育、保健管理と安全管理の現状について講義を展開し、セーフティプロモーションについての理解を深める。また、基礎医学的な内容を理解することで、健康の本質を追究できる保健体育教師の育成を目指す。	1.健康とは何か、その本質と哲学性を追求することができる。2.教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の内容を理解する。3.学校保健教育と保健管理の内容を理解し、推進することができる。4.保健教育と保健管理、安全教育と安全管理の進め方を理解し、推進することができる。5.児童・生徒の健康と生活上の諸問題について、課題意識を持ち、解決を図ることができる。6.基礎医学(心臓疾患、腎臓疾患、皮膚疾患、口腔保健)の内容を理解し、説明できる。	◎	◎	◎
専攻 コース科目	学校保健Ⅱ(小児保健・精神保健を含む。)	3・後	学校保健安全法によって位置づけられている学校における保健活動を学ぶ。学校保健Ⅰで学んだ基礎的発展的課題である保健教育を中心に、特に発育期にある児童・生徒の今日的な健康課題について、保健体育科教員として学習と指導が出来るような知識と技術を学ぶ。加えて、精神的な健康問題についても「いじめ・不登校」問題を中心に児童・生徒、教職員の健康課題について学び、学校が安全で安心して学べる場としての確保の重要性を基礎に、学校環境、学校安全についても知識をより深め、学校における保健体育教員への期待に応える。	①学校保健の意義、目的、重要性を説明できる。②学校保健安全法における業務遂行内容を説明できる。③保健教育における児童・生徒の危険行動防止の具体的内容を説明できる。④学校保健における精神保健の重要性と学校における課題について説明できる。⑤学校保健における学校環境衛生の重要性と課題を説明できる。⑥学校保健における学校安全の重要性と課題を説明できる。	◎	◎	○
専攻 コース科目	学校保健指導演習	3・後	本科目は、学校における様々な保健活動で必要とされる技能の獲得や資質の向上をめざして演習形式で授業を展開していく。とくに、保健主事の役割や具体的な活動内容、さらには学校保健組織活動の実態についてふれながら、年間保健指導計画や保健だよりの作成、保健学習の教材開発などを試みていきながら、受講学生の保健体育科教員としての力量形成を図る。	①保健主事の任務や職務内容について理解し説明できる。②学校保健指導計画や保健だよりの機能を理解し、作成できる。③中学校「保健分野」・高等学校「保健科目」の構造と内容を説明できる。④「保健」の学習指導案がきちんと作成でき、授業の運営ができる。	◎	○	◎
専攻 コース科目	社会体育論	2・前	本講義では現代社会における社会体育の必要性和社会体育の理論と実際を中心に講義する。特にスポーツ政策の中での位置づけ、法的根拠、社会的課題とスポーツの関係性と意義について、地方公共団体での政策実務の経験をふまえた講義を展開する。	①社会体育の定義及び歴史的変遷を理解する。②現代社会における社会体育の必要性和課題について説明できる。③行政の施策の中での社会体育の位置づけについて、俯瞰的に捉えることができる。	◎	○	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻 コース 科目	ジュニアスポーツ論	3・前	年齢段階の発育・発達およびその個人差を理解し、それに応じたプログラムを選択、指導することが必要である。理解なく、誤った指導を行なった場合、子どもにとって重大なスポーツ障害を発症させる可能性がある。本講義では、乳幼児期から青年期までの発育・発達に応じたスポーツプログラムについて体系的に学習し、ジュニアスポーツを指導するものとして必要な能力を身につけた学生の育成を目指す。	遊びや運動の方法や注意点について性、年齢あるいは、意欲に応じた指導方法を考えられる知識を得ることができる。また、ジュニア期のスポーツ指導者として多様なニーズに対応した基礎知識と指導法を習得することができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	ジュニアスポーツ指導演習	3・後	本科目は、ジュニアスポーツの指導場面において必要とされる、コーディネーショントレーニングの指導方法について、主に理論学習や模擬指導を実施する。また、子どもたちが自主的に運動(活動)を行えるようなゲームを紹介する。	①「走る」「跳ぶ」「投げる」等の運動動作を理解し、説明・記述・実践できる。②多種多様なゲームの指導ができる。③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができる。④模擬指導に積極的に参加し、その後の討論で意見を述べることができる。⑤指導の組み立てと時間配分が的確にできる。	○	◎	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーナー概論	1・後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。本講義ではアスレティックトレーナーの歴史や役割について概略を説明する。また、日本スポーツ協会の公認アスレティックトレーナー資格に焦点を当て検定試験の内容や受験資格に関して説明する。	アスレティックトレーナーの歴史や役割の概略を学ぶことでアスレティックトレーナー関連科目の学びの意義と目的を明確にすることが出来る。	◎		○
専攻 コース 科目	機能解剖学Ⅰ	2・前	本科目では人体の動きを理解する上で必要となる骨、関節、筋、神経などの解剖学的用語について学ぶと共に、運動学的側面から人体の機能についての理解を深める。また、スポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導と関連づけて学ぶことにより、アスレティックトレーニングやストレッチ&コンディショニングについての基礎知識を身に付ける。なお、本科目では主に運動器の解剖と機能概論および上肢の基礎解剖と運動について学ぶ。	①人体の解剖学的構造を理解し、身体の動きと構造の関連を適切な専門用語を用いて説明することができる。②機能解剖学の基礎知識を用いて上肢におけるスポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導について考えることができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	機能解剖学Ⅱ	2・後	本科目では人体の動きを理解する上で必要となる骨、関節、筋、神経などの解剖学的用語について学ぶと共に、運動学的側面から人体の機能についての理解を深める。また、スポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導と関連づけて学ぶことにより、アスレティックトレーニングやストレッチ&コンディショニングについての基礎知識を身に付ける。なお、本科目では主に体幹と下肢における基礎解剖と運動について学ぶ。	①人体の解剖学的構造を理解し、身体の動きと構造の関連を適切な専門用語を用いて説明することができる。②機能解剖学の基礎知識を用いて体幹におけるスポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導について考えることができる。③機能解剖学の基礎知識を用いて下肢におけるスポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導について考えることができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツ傷害論Ⅰ	2・前	スポーツ選手の外傷・障害の予防、救急処置、受傷から復帰までのアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを実践していくためには、スポーツ医学に関する知識と技術が必須である。本科目では、スポーツ選手を医学的側面からサポートする際に欠かすことのないスポーツ外傷・障害の基礎知識について主に体幹と上肢を中心に解説する。	①スポーツ外傷・障害の概要を理解し説明できるようになる。②スポーツにおいて発生する体幹部および上肢のスポーツ外傷・障害の病態や特性を理解し、説明できるようになる。③スポーツ外傷・障害の基礎知識を基にアスレティックトレーニング、トレーニング指導、もしくは、自らの怪我の予防や競技復帰などについて考えられるようになる。	◎	○	○

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻 コース 科目	スポーツ傷害論Ⅱ	2・後	スポーツ選手の外傷・障害の予防、救急処置、受傷から復帰までのアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを実践していくためには、スポーツ医学に関する知識と技術が必須である。本科目では、スポーツ選手を医学的側面からサポートする際に欠かすことの出来ないスポーツ外傷・障害の基礎知識について下肢のスポーツ外傷・障害、重篤な外傷、スポーツ整形外科的メディカルチェックなどについて解説する。	①スポーツ外傷・障害の概要を理解し説明できるようになる。②スポーツにおいて発生する下肢のスポーツ外傷・障害や重篤な外傷の病態を理解し説明できるようになる。③スポーツ外傷・障害の基礎知識を基にアスレティックトレーニング、トレーニング指導、もしくは、自らの怪我の予防や競技復帰などについて考えられるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	コンディショニング論	2・前	本科目では、スポーツ現場におけるコンディショニングの定義および手法を学ぶ。コンディションとコンディショニングを考え、セルフコンディショニングを含んだ概念を理解することで自身の競技あるいは将来サポートする場合に役立てていく。	①コンディションとコンディショニングの意味を説明できる。②コンディショニングの必要性やその実施方法を説明できる。指導者またはアスレティックトレーナーになるための基礎知識を身につけ、スポーツ現場で実践できるようになることを目標とする。自身の競技にも役立たせる。	◎	○	
専攻 コース 科目	コンディショニング演習	2・後	本講義は「コンディショニング論」で学んだ手法などを実践し、その注意点について学ぶ。また、競技者を想定し、これまで学んだ知識・技術を活用し、さまざまなプログラムの立案・設計を行う。	講義・演習により学習したコンディショニング方法を実施できる。コンディショニングプログラムを作成することができる。	◎	○	
専攻 コース 科目	身体機能評価法	2・後	アスレティックトレーナーとして必要な検査・測定法を学習し、その得られたデータを統合させコンディショニングの維持、外傷の予防、怪我からの復帰など選手に対して最善の状態に持っていくために必要な知識・技術の学習を行う。	①各種の評価法の理解と実施が出来るようになること②身体機能評価で得られたデータを統合できるようになること③動作分析ができるようになること	○	○	◎
専攻 コース 科目	スポーツ傷害評価法	3・前	本講義はスポーツ現場でみられる外傷・障害に対する関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科的検査などの理学検査を用いた評価法を学ぶ。	評価に必要な検査・測定が実施できる。主訴および受傷機転から必要な検査を選択し、実践することができる。競技者におもいやりを持ち接することができる。競技者と必要な会話をすることができる。	◎	○	
専攻 コース 科目	リハビリテーション論	3・前	本講義は、3年生後期のアスレティックリハビリテーション論、4年生前期のアスレティックリハビリテーション演習に続く最初の講義である。アスレティックリハビリテーションとは何かを理解し、現場で行われるアスレティックリハビリテーションの前段階であるメディカルリハビリテーションの理論・方法を学ぶ。	復帰初期段階までのリハビリテーションを理解し実践できるようになる。物理療法、運動療法、補装具の使用方法を理解する。	◎	○	

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等先して行動できる力を身につけている。
専攻コース科目	アスレティックリハビリテーション論	3・後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。本講義では、部位および傷害別におけるアスレティックリハビリテーションについて学ぶ。具体的には傷害発生メカニズムから再発予防までを考慮したアスレティックリハビリテーションプログラムの概要や作成方法について学ぶ。	各部位および傷害別におけるアスレティックリハビリテーションの概要を理解し、安全かつ効果的なプログラムを作成できるようになる。	◎	○	
専攻コース科目	アスレティックリハビリテーション演習	4・前	アスレティックトレーナーとしての経験をもとに授業を展開する。各種スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの流れを理解する。また、傷害発生メカニズムから再発予防、また各競技の特性を理解したうえでプログラミングならびに適時各エクササイズの実践を行う。	競技現場における安全で効果的なアスレティックリハビリテーションを実践・指導することが出来る。各スポーツ傷害および競技特性を踏まえて適切なプログラミングが出来る。競技復帰だけではなく再発予防という観点からも指導が出来る。	◎	◎	
専攻コース科目	スポーツ内科学	3・後	スポーツには、成績を競う競技スポーツの側面だけではなく、健康増進を目的の行う健康スポーツの側面がある。また、スポーツにおける健康障害には、整形外科的な障害だけでなく、内科的障害もある。本講義では、高齢者・有疾病者を含むすべての人々が安全にスポーツを行うことができるよう内科的な知識を習得し、その実践を行えるようになることを目的とする。	内科的疾患およびスポーツによってもたらされる内科的しょうがい理解し、安全にスポーツを行えるように指導することができる。メディカルチェックの内容・方法を理解し、実践することができる。ドーピングコントロールについて知識を習得し、適切なアドバイスができるようになる。スポーツによる内科的障害を理解し、その予防計画を立案できる。	◎		○
専攻コース科目	アスレティックテーピング	3・前	スポーツ外傷の予防、保護、再発防止などに用いられるテーピングの基本的な巻き方とスポーツ競技特性や外傷の種類を考慮した応用的な巻き方について実習を行う。	本講義では日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格試験を念頭においているが、テーピング技術だけでなく競技者に思いやりを持ち、こころのこもったテーピング技術の獲得を目指す。選手に応じて適切なテーピングの種類・方法を選択できるようにする。なお、足関節の再発予防のテーピングは1分30秒以内に巻ける圧倒的な技術を身につける！選手に本当に巻くという気持ちを持ち、使えるテーピングが巻けるか評価する。	◎	○	
専攻コース科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ	3-4・前期集中	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅰはこのカテゴリーの①見学実習(30時間)に相当する。	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。5種類のスポーツ競技を見学し、競技特性や想定されるスポーツ外傷・障害をまとめることができる。	○	◎	◎
専攻コース科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ	3-4・前期集中	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅱはこのカテゴリーの②検査・測定、評価実習(30時間)に相当する。	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。主要なスポーツ外傷・障害に対して検査・測定、評価し、それらを適切に記録することができる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ	3-4・ 前期 集中	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅲはこのカテゴリーの③スポーツ現場実習(30時間)に相当する。	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。スポーツ現場で発生するスポーツ外傷・障害に対して評価を行い、適切な応急処置、ストレッチング指導、テーピングを行うことができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅳ	3-4・ 後期 集中	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅳはこのカテゴリーの④アスリハ実習(30時間)に相当する。	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。主なスポーツ外傷・障害に対して適切なアスレティックリハビリテーションを処方し指導することができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅴ	3-4・ 後期 集中	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅴはこのカテゴリーの⑤総合実習(60時間)の前半に相当する。	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。主なスポーツ外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションを処方し、外傷発生から競技復帰に至る全てを指導することができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅵ	3-4・ 後期 集中	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅵはこのカテゴリーの⑤総合実習(60時間)の後半に相当する。	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。主なスポーツ外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションを処方し、外傷発生から競技復帰に至る全てを指導することができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	健康フィットネス概論	1・後	生活習慣病のような文明病は、個々の意識の向上と社会的システムの構築によって十分克服できるものとする。そこで本講義では、健康とは何か、フィットネスに対する関心の高まりの社会的背景、健康とフィットネスとの関係、運動のプログラムなどについて学習するとともに、健康運動指導士及び健康運動実践指導者資格の受験に必要な基本的知識を学習する。	・健康運動指導士と健康運動実践指導者の役割を説明できる。 ・健康づくりのための各種方法を説明できる。 ・運動が身体に及ぼす影響を説明できる。	◎		
専攻 コース 科目	健康づくり運動理論	2・前	運動は、主に生活習慣病の予防・治療にとって食事療法・薬物療法と並んで有効な手段である。しかし、運動の仕方を間違えたりかえって病状を悪化させることもある。ある目的をもって運動しようとするとき、その目的を達成するのに最も適した運動の内容を決めることを「運動処方(Exercise Prescription)」という。本講義は、健康を回復・保持・増進するための方法として、運動の原理・原則について学び、実際に運動処方(運動プログラム)を作成するときの基礎知識を習得させる。	運動不足から発症する生活習慣病を予防・治療することを目的とした運動を処方するための基礎知識を理解し、健康づくり運動指導者に求められる資質を高める。	◎	○	

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻コース科目	健康づくり運動実技	2・後	健康づくりのために運動を行なうことは、現代社会においては必要不可欠であり、そのための運動指導者の役割や使命は大きなものになってきています。本実習では、運動指導者として最低限必要とされるスキルを身に付けながら、健康づくり運動として捉えられている運動(特に陸上運動としてのストレッチング・ジョギング・ウォーキング・レジスタンスエクササイズ)についての知識と理解を深め、さらに実践力を高めていきます。「健康運動実践指導者」資格取得を目指して学びを深めていきます。	健康づくり運動の指導者として求められる知識と指導技術を習得する。特に、運動効果を高めるためのフォームや対象者に応じた運動の組み立て方、指導現場における安全管理のノウハウについて身に付ける。具体的には、健康づくり運動を①適正な動作・フォームで実演できる②目的を理解し説明できる③適切な表現で伝達できる④ポイントや注意点を指導できる⑤対象者を観察し動きの修正や動機付けができる技能を身に付ける。	◎	◎	
専攻コース科目	運動器の構造と機能	2・前	本科目では、人体の骨格や筋肉の構造など、ヒトの運動にかかわる身体の構造とその機能について基本的な知識を身に付けることを目的とする。また、トレーニング指導や運動処方を行う際に必要な運動学的知識についても学ぶ。	①ヒトの運動にかかわる基本的な身体の構造とその機能を理解し説明することができる。②ヒトの筋肉や骨、靭帯など基本的な部位を触ることができる。③基本的な運動学の知識を基に、適切なトレーニング指導や運動処方について考えることができる。	◎	○	○
専攻コース科目	健康医科学論	2・前	健康の概念、またスポーツ活動と健康の関連について医科学の面から学ぶ。スポーツは、健康増進に寄与すると考えられるが、スポーツ活動に伴う医科学的諸問題も存在する。それらの諸問題、特にスポーツ外傷や障害、内科的障害の特性や対応策について講義する。本授業は現役の医師の経験を活かした授業を展開する。	本講義を通してスポーツ・健康運動現場において見られる様々な外傷・障害、内科的障害の概要を理解し、それらの予防と対応ができる。またスポーツ現場における安全管理者としてスポーツ活動の現場の安全性の向上を図り、スポーツ医科学の専門家と連携をとることができる。	◎	○	○
専攻コース科目	スポーツカウンセリング論	3・前	スポーツカウンセリングは、選手へのカウンセラーによる心理的支援、あるいは両者の共同作業によって、選手の自己の内的変容や成長が促される営みである。選手の内的変容や成長に伴って、安定した競技力の発揮や向上にもつながることが期待できる。本講義は、スポーツカウンセリングの基礎的な理論及び方法について学び、自身の競技実践また将来の指導実践において役立つ知見を学習する。	1. スポーツ場面において競技者が抱える不安や受傷体験など、その意味について臨床学的に考察することができる。2. カウンセラーの基本的態度について理解し、説明することができる。3. カウンセリングの継続や中断の意味について理解し、説明することができる。4. カウンセリングのベースとなっている理論について説明することができる。5. スポーツカウンセリングとメンタルトレーニングの違いについて説明することができる。	◎	○	
専攻コース科目	運動生理学	2・後	運動生理学は運動及び特殊な環境下での身体機能の一時的、持続的変化について学び、研究する学問である。運動・健康に携わる指導者にとって必要な知識を学習し、身体活動時の生理的変化を科学的な立場から考察できる資質を養うことが目的である。本授業では骨格筋系、神経系、呼吸器系、循環器系等の運動時のメカニズム及び特殊環境下での身体適応について学習する。	健康運動指導士試験に合格できるレベルを到達目標とする。運動及び環境の変化が身体に及ぼす効果を論理的に説明できる。	◎	○	
専攻コース科目	生活習慣病概論	3・前	「生活習慣病」とは、運動や食事・喫煙・飲酒・睡眠などの生活習慣が、発症および進行に関与する疾患群であり、代表的なものとしては、糖尿病・高血圧症・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドローム・虚血性心疾患・ロコモティブシンドロームなどがあげられる。これらの疾患について概説するとともに、基礎的な医学的知識を習得することを目標とする。また、これらの疾患を改善させる「運動療法」についても知識を深める。	生活習慣病の定義やその病態を理解し、それぞれの疾患についての診断・治療などについて理解できる。運動療法を行うにあたって、基本的な医学的知識を身に付ける。有疾病者において、運動を安全に行うことができる。効果的かつ安全な運動プログラムを立案できる。	◎		○

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻 コース 科目	運動負荷試験	3・前	本授業は運動時に発症する潜在的な疾患に対する診断と評価及び運動療法や薬物療法に対する効果判定に必要な運動負荷試験の知識と技術を学ぶ。運動負荷には専用の自転車エルゴメーター及びトレッドミルを使用し、運動強度を自動設定して標準12誘導の心電図を計測する。測定された心電図波形を解析し、心電図評価を実施する。運動負荷試験実習およびその判定・評価では、日本医師会認定健康スポーツ医が指導を行う。	1.運動負荷試験を対象別に実施できる。2.基本的には異常心電図を判別できる。3.運動負荷試験の事故発生に対して適切な処置がとれる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	運動プログラムの管理	3・後	本授業は健康運動指導士にとって必要な健診結果の読み方、メディカルチェック、心電図の読み方、生活習慣病改善のための運動プログラムの作成の理論、服薬者の運動プログラムに関する基礎知識の習得と具体的な運用法について学ぶ。	1.健康診断(含・特定健診)、メディカルチェックの内容および重要性を理解する。2.心電図の基本的特性および重要性を理解する。3.メタボリックシンドロームおよび各種生活習慣病予防・改善に向けた運動プログラムが作成できる。4.服薬者の運動管理ができるようになる。			
専攻 コース 科目	介護と福祉のフィットネスプログラム	3・後	本授業は介護予防のための運動やレクリエーションに対する考え方から実践までを学ぶ。高齢者を対象に運動プログラムの知識と技術を幅広く学ぶ。	介護予防事業の体力測定評価を実践することができる。対象や目的に合わせた運動プログラムを立てることができる。対象や目的に合わせたレクリエーション活動のプログラム立案、実施することができる。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	健康栄養指導演習	3・後	健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療する上で運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。生活習慣病予防や有患者者に対する運動指導においても、その効果を発揮するためには食生活への指導が不可欠である。本演習は栄養指導能力向上のため、前半は健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士養成カリキュラムのテキストに準じて授業を進め、後半はフードモデルによる演習を重視する。	ヒトのライフステージごとに、食生活を通して健康を保持・増進するために必要な理論および実践的な知識や技法を習得し、健康づくりのための栄養・食生活の助言ができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	アクアエクササイズ	2・後	健康・体力づくりの指導を、プールという環境を利用し、水の特性を理解した上で、ウォーミングアップ、有酸素運動、筋力トレーニング、リラクゼーション、レクリエーションを水中ウォーキングやアクアダンスエクササイズの手法で学び、実演、指導が出来るようになっていきます。	水中で行うエクササイズプログラムを作成することができる。水中で運動をおこなっている方を陸の上から実演し指導ができる。健康運動実践指導士、日本フィットネス協会のアクアエクササイズ実技試験合格レベルの実演、指導ができる。	◎		○
専攻 コース 科目	エアロビクエクササイズ	3・前期集中	エアロビクダンスのプログラミング法を中心に学びます。同時にエアロビクダンスIで取得している、動作や指導のスキルも高め、インストラクターとして総合的にレベルを高めていく。	安全で効果的なプログラムを作成し、実演することができる。エアロビクダンスの楽しさを伝えられる指導力を身につけることができる。グループエクササイズでありながらも、参加者一人一人に合った指導ができる。	◎		○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻コース科目	健康産業施設実習	3-4・前期集中	夏期休暇を中心として10日間のインターンシップを実施する。実習先は健康運動指導士が在籍するスポーツクラブ、メディカル施設等の健康産業施設とする。実習内容は、運動プログラム作成、運動指導及び指導補助、施設管理、事業運営など現場で行われているすべての業務とする。	実習を遂行し、報告書としてまとめることができる。まとめた内容を人前で発表・報告することができる。	◎	◎	○
専攻コース科目	スポーツ政策概論	1・後	政策に関する基礎的な事項、国・地方の政策の中でのスポーツ政策の位置付けについて地方公共団体におけるスポーツ政策実務の経験をふまえた講義を展開する。社会環境の変化の中で、行政の視点だけではなく、さまざまなステークホルダーの視点から現代に求められるスポーツ政策のあり方について理解を深める。	①国・地方自治体のスポーツ政策の現状と課題が理解・説明できる。②スポーツ行政の組織・主要施策について理解できる。③スポーツ以外の分野との連携、スポーツがもたらす効果について理解できる。	◎	○	○
専攻コース科目	スポーツ政策各論	2・前	政策に関する基礎的な事項、国・地方の政策の中でのスポーツ政策の位置付けについて地方公共団体におけるスポーツ政策実務の経験をふまえた講義を展開する。社会環境の変化の中で、行政の視点だけではなく、さまざまなステークホルダーの視点から現代に求められるスポーツ政策のあり方について理解を深める。	①国・地方自治体のスポーツ政策の現状と課題が理解・説明できる。②スポーツ行政の組織・主要施策について理解できる。③スポーツ以外の分野との連携、スポーツがもたらす効果について理解できる。	◎	○	○
専攻コース科目	スポーツ組織論	2・前	近年、スポーツ界においても組織力を高めることが指摘されている。これまでのスポーツは属人的な組織が多く、例えばチームなどの場合は指導者に意思決定を委ねたり、協会的な組織も一部の人材によって意思決定が行われるなどしている。そこで、本授業では担当教員自身がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)した経験を活かし、スポーツ人における組織づくりを学んでいく。	1. 組織論を理解し、個人としての自分と組織人としての自分を認識することができる2. スポーツ組織の社会的な課題を指摘し、解決策を立てることができる3. 組織におけるコミュニケーションスキルを身につけることができる	◎	○	○
専攻コース科目	地域スポーツ政策演習	2・後	スポーツ政策の分野は量的にも質的にも、その研究は著しく少ないと指摘されている。実際の行政政策の場においても、その専門家が存在することは皆無に等しい。各分野の専門家は存在しても、政策の専門家がコーディネートすることは少なく、またソーシャルアイデアとして政策を策定することも難しい。授業は担当教員がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)し、行政政策に関わった経験を活かしながら展開する。	1. 地域スポーツ政策の実際を学び理解することができる2. スポーツプロダクトとしてのソーシャルアイデアを学び、自身で計画できるようになる3. 我が国に必要なスポーツ政策を立案できるようにする	○	◎	○
専攻コース科目	生涯スポーツ論	2・前	本授業では、生涯学習の視点からスポーツとすべての世代との関係性を検討する。その際、ライフステージを通じたスポーツの享受と社会全体における多様な機会、例えば、学校教育、成人教育、高齢者対象のプログラム、地域社会でのスポーツクラブでのスポーツ環境の重要性について学ぶことを目的とする。	(1)生涯スポーツに関する基礎基本を理解し、説明ができる。(2)各ライフステージにおける生涯スポーツの重要性を理解し、説明ができる。(3)地域社会を基盤としたスポーツ振興の重要性について理解し、説明ができる。	○		◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専攻 コース 科目	生涯学習と社会体育	2・後	生涯スポーツ及び社会体育の概念や意義(使命と役割)を理解しながら、少子高齢化や国民の健康スポーツに関するニーズを踏まえて、その実現に寄与できる知識と態度を涵養する。また生涯スポーツ及び社会体育を効果的に実現するための行政の在り方について、各機能相互の連携・協働とその体系化について学ぶとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に注目を集めているパラスポーツ(障がい者スポーツ)の視点から生涯スポーツ及び社会体育における人権意識の涵養についても講義する。	①生涯スポーツ及び社会体育の概念について理解し、説明できる。②生涯スポーツ及び社会体育の意義について理解し、説明できる。③生涯スポーツ及び社会体育の関係性について理解し、説明できる。④生涯スポーツ及び社会体育と行政(生涯学習行政、社会教育行政)との連携・協働について理解し、説明できる。⑤生涯スポーツ及び社会体育と人権の関係性について理解し、説明できる。	◎		○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3・通 年前 期	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。	○等速性筋力測定器(サイベックス)が使用できるようになる。 ○キネアナライザー等の分析ソフトが使用でき、分析に必要な作図ができるようになる。○各自のテーマに沿った文献を収集することができるようになる。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3・通 年前 期	本授業は、4年次の卒業研究に結びつくものとして捉えている。取り扱う領域は、運動生理学、環境生理学、体力医学で、研究の基礎を学ぶ。また健康運動指導士の受験に必要な知識をテキストを輪読しながら習得する。	様々な研究者の文献を読みこなすことで、研究への取り組み方、研究手法、レポートのまとめ方などを習得し、答の見つからないテーマに対していかに自分なりの答え(結論)を導き出すか、といった研究する態度を身につける。健康運動指導士講習会用テキストを輪読することで、健康運動指導士の素養を身につける。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3・通 年前 期	本演習は、卒業研究を作成するための基礎的能力を養い、研究の方向性を明確にすることを目的とする。前期は、論文を収集し講読することにより専門分野への理解を深める。また、運動生理・バイオメカニクス分野の実験方法とデータの解析方法を学ぶ。	①収集した先行研究を要約し、概要をまとめることが出来る。	◎	○	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3・通 年前 期	スポーツゼミナール(前期)では、卒業研究に向けたスポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。	研究論文作成に関わる能力を習得する。研究論文テーマの設定ができる。テーマ設定の理由が説明できる。研究目的を箇条書きで示すことができる。先行研究の文献検索ができる。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3・通 年前 期	スポーツの世界における栄養指導の理想は、スポーツ選手の食事調査を行い→問題点を把握し→介入指導を行い→改善結果を得ることである。卒業研究に向けて、食事調査手法の検討とともに栄養学の知識を修得し、栄養指導のできるスポーツ指導者やトレーナーを目指す礎を作ることを本演習の目的とする。	研究をデザインすることの意義が理解できる。栄養素の基礎を理解し、説明できる。食事調査結果から問題点の把握ができる。	◎	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	スポーツ科学の研究分野で用いられる主要な測定法について実習を行い、データを取得しデータ処理、プレゼンテーション資料の作成を行うことができるようにする。実験計画からデータ取得、データ解析の過程を経験することにより、卒業研究を自力で進めるための力を身につけることを目指す。	身体の形態や機能を数値化するため、実験機材の使用法を身につけること。取得したデータを解析し、その意味を理解するとともに他者に対して説明できること。データの意味を解釈し、プレゼンテーションを行うことができること。	○	◎	
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	日本の武道(武術)および伝承的身体運動文化について、その研究の概略を考究する。	武道(武術)および伝承的身体運動文化に関する研究の概要を知るとともに代表的な文献に触れ、研究に取り組む能力を身につける。	◎	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	スポーツ学演習Ⅰでは、後期のスポーツ学演習Ⅱで本格的に取り組む卒業研究作成の基礎構築を目的とする。本ゼミは、スポーツを中心に据え、社会教育・生涯学習・スポーツ行政の視点からその関連性をテーマに各自の問題意識を深めていく。具体的には、各自のテーマ設定、研究方法、先行研究等について、講義、ゼミ生の調査及びプレゼンテーション、討論等を通して進めていく。	①スポーツと社会教育・生涯学習・スポーツ行政の関連性を把握することができる。②スポーツを活用することによる社会の発展を構想することができる。③スポーツを活用することによる各自の構想を実践する見通しを持つことができる。④論文執筆に向けて、思考力や表現力を高めることができる。	○	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	卒業研究論文を作成するための基礎知識を学習する。バスケットボールを中心として球技の特性と基本的な戦術行動について解説する。その中から各受講生の興味に応じた研究内容を探っていく。その上で、研究方法の手段について総合的に学習し、自らが取り組もうとしている課題の解決方法を習得する。	バスケットボール(球技)を研究教材としての視点から特性を理解し複数の分析方法を使ってデータを収集することができる。資料(データ)整理の方法を理解し使うことができる。論文・レポートの構成を理解し、収集した資料(データ)をレポートにまとめることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	卒業研究を進めていく上で必要な基礎的能力を修得し、自身の卒業研究テーマの方向性を見出すことが、本演習のねらいである。具体的には、収集した資料について討論することにより専門分野への理解を深め、実験方法やデータ処理・評価方法を学習することをおし卒業研究テーマの方向性を明確にしていく。	①健康・体力関連分野の研究概要を知る。②実験方法に習熟する。(形態計測・身体組成測定法・血圧測定法・酸素摂取量測定法など)③研究資料(専門書・研究論文)を収集できる。④資料の概要をまとめて、プレゼンテーションできる。⑤研究データを統計処理できる。⑥卒業研究テーマの方向性を示すことができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	本授業は、4年次に取り組む卒業論文に向けて、スポーツ心理学、臨床スポーツ心理学の基本的知識を幅広く概観し学んでいくことによって、各自の心理学領域における興味・関心を高めていく。具体的には課題図書の内容の輪読、文献購読を中心に行いながら各自が概要をまとめ、自身の考えを織り込みながら互いに発表しあうことによって、自らの興味・関心を浮き彫りにしていくと同時に、論理的思考能力を養っていく。	1. 課題図書、文献の概要について簡潔にまとめることができる。2. 課題図書、文献の内容について理解するとともに自身の考えを述べる事ができる。3. 心理学的なものの方、臨床学的な事象の捉え方について理解し、自身の日常場面に取り入れることができる。4. 心理学領域における自身の興味・関心を述べる事ができる。	◎	○	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	スポーツゼミナールでは、バスケットボールを中心とした戦術・戦略を理解し、卒業研究に向けた基礎知識を学習する。授業は主に自分で調べた文献の内容を理解し、他の受講者に説明し、質疑応答を行う。研究の目的、進め方、文献検索、課題、問題点を明確にして発表できるようにする。	1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。2)卒業研究に向けたテーマの探索。3)文献の内容を理解し、自身の考えを述べることができる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	本授業では卒業研究を進めていく上で必要な基礎知識を修得し、自身の関心研究分野を見つけ卒業研究テーマの方向性を見出し、研究論文のテーマの設定ができる。	①研究論文の作成にかかわる基礎能力を習得する。②先行研究の文献収集ができる。③研究論文のテーマの設定ができる。④研究論文のテーマ設定の理由(理論的背景及び研究目的の説明ができる。)	◎	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ科学分野での様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。	自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	アスレティックトレーニング領域を中心に基礎的な理論習得と実践活動を通しての技術習得を目的とする。特に実習・演習への積極的な参加を通じて、自身の活動からの学びを重視する。	スポーツ指導者ならびにアスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を習得することが出来る。また、学習を通じて自身の課題や目標を明確にする素養を身に付けることが出来る。	○	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	本授業におけるスポーツゼミナールでは、バレーボール競技を中心とした競技特性と基本的な戦術行動を解説し、自身の競技実践を通して競技力向上に関わる実態を把握し課題の解決に向けた実践的側面から考究する。	①バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。②収集した先行研究・資料をまとめることができる。③競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。④バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。	◎	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	4年次に行う卒業研究に向けて、研究の手法や発表の方法を学ぶとともに、先行研究を調べながら、自分の関心あるテーマについて深く掘り下げていく。心理学や教育に関わる領域を中心に、それぞれの研究の方向性を決めていく。	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。 【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。	○	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系的基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	スポーツ科学(サッカー)の分野に適した試合録画・分析法を学ぶ。また、この分野での最先端の知識を身につけるとともに、学術論文の書き方やプレゼンの方法を学習することを目的とする。	試合録画・分析法を習得することができる。スポーツ科学(サッカー)の分野の最先端の知識を習得することができる。パワーポイントによるプレゼンの方法を習得することができる。学術論文の書き方を学習する。	◎	○	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	卒業研究に取り組むにあたって求められる基礎知識の習得を目指し、実践現場(コーチング、トレーニング)に活かすことのできる人材育成を目的とする。研究領域は、コーチング論・トレーニング学である。ここでは、自身のコーチング・トレーニング実践を通して感じた①素朴な疑問を見つけ、②その疑問の実態を把握し、③疑問に対する仮説を考え、④仮説を立証する研究方法を調べることができるようになることを求める。また、小論文トレーニングを行い、論文を書く力を養成する。	①コーチング論・トレーニング学に関連する先行研究・資料を収集できる。②収集した先行研究・資料をまとめることができる。③トレーニング実施上の課題や問題点を明らかにすることができる。	○	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	本授業では、水泳を中心とした科学的サポートや体力測定の方法とその分析方法を学び、4年生における卒業研究に向けた基礎知識を得ることを目的とする。	1. 科学サポート・体力測定法・分析法を習得する。2. 分析したデータについて考察することができる。3. 各自興味のある分野について資料を収集する。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	卒業研究(陸上競技の中でも投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投-)を中心とした分野)に取り組むにあたり、陸上競技の特性や基本的な競技力向上に関わる動作やトレーニング・コーチングについての先行研究を抄読し、理解を深める。	(1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身に付ける。(2)投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。(3)投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。(4)収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を示すことができる。	◎	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	卒業研究を進める上での基礎的能力を養成することが目的である。研究を進める上での理論的基礎となる発生運動学の概要について学習する。	①収集した先行研究について要訳することができる。②発生運動学の基礎的概念について事例を上げて説明できるようになる。	◎	○	
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	本ゼミナールでは、スポーツに関連した政策に関する研究テーマを扱う。ここでのスポーツ政策とは、スポーツを公共政策の課題の克服の手段として考える。卒業研究に向けて、文献・資料の集め方、レジュメ・レポートの作成方法などの基礎的な技法を学んだ後、相互に学びあうグループ討議を行うほか、調査した結果をまとめ発表する。各自の関心領域に応じたスポーツ政策の事例研究を文献調査やヒアリング調査により行う。	論理的に思考し分析する能力や、課題解決に向けた提案能力を高める。スポーツ政策における事例やその効果について、説明することができる。	○	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ政策・社会学・マネジメント分野での研究・発表方法を学ぶ。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。	自身に興味のあるスポーツ分野を社会現象として客観的に捉えるその現象が研究分野としてどのように探究されているかを調べるその情報を理解し、プレゼンをしながら、他人と共有するそこからさらに自身の興味を高め、次年度の研究材料を見つける論文作成の方法論について学ぶ	○	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	本講義では将来職業としてスポーツに関わりたい人を対象として、多くの関わり方を学びスポーツ観戦や競技者、関係者から話を聞きながら自分の世界を広げていく。また、アスレティックトレーナーとしての領域であるスポーツ外傷・障害の知識、コンディショニングの知識・技術の経験を増やすだけでなく、スポーツ選手への関わり方を実体験を通して学んでいく。あわせて、卒業研究に向けて文献検索の方法や研究手法も学ぶ。	スポーツの関わり方を知る。競技者、スポーツ関係者とコミュニケーションを取ることができる。アスレティックトレーナーとしてのところを身につけることができる。問題意識を持つようになることができる。	◎	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	授業(保健体育)やコーチングの現場において、教師・指導者は生徒・選手に対して様々な指導やアプローチを行っている。このことから教師・指導者について様々な観点から分析を行い、指導現場に活かすことが重要である。本演習では、保健体育科教員や部活動指導者の現状や問題点を明らかにし、教員や指導者に必要な資質や能力など、指導現場に必要な要素について理解を深めることを目的とする。	・興味のある分野の資料を収集することができる。・収集した資料をまとめ、現状や問題点をまとめることができる。・論理的なプレゼンテーション・ディスカッションができるようになる。・WordやExcel、PowerPointの基本的な操作ができるようになる。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	4年次に取り組む卒業研究に向けて、体育・スポーツ科学分野、特に学校教育現場の事象に関わった様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。	自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年前期	アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルやトレーナーの知識やスキルを身に付けた社会人を育てる事を目的とする。また、学生アスレティックトレーナー教育やアスレティックトレーナー活動での経験を活かし、授業展開を行います。	アスレティックトレーナーとしての必要なヒューマンスキルを身につけることができる。様々な現場でアスレティックトレーナーの知識やスキルを使うことができる。	○	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。	○等速性筋力測定器(サイベックス)が使用できるようになる。○キネアナライザー等の分析ソフトが使用でき、分析に必要な作図ができるようになる。○各自のテーマに沿った文献を収集することができるようになる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	本授業は、前期に開講されるスポーツゼミナールに引き続き文献抄読が主になるが、ここでは卒業研究のテーマを決定し、具体的な内容に取りかかることが主な目標である。	卒業研究のテーマを決定する。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	本演習は、卒業研究を作成するための基礎的能力を養い、研究の方向性を明確にすることを目的とする。後期は、先行研究を詳細に検討し予備実験を実施、自らの研究計画を取りまとめる。	①予備実験を計画し実施できる。②自ら研究計画をとりまとめ、発表することができる。	◎	○	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	スポーツゼミナール(後期)では、卒業研究に向けたスポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。	研究論文作成に関わる能力を習得する。研究論文テーマの設定ができる。テーマ設定の理由が説明できる。研究目的を箇条書きで示すことができる。先行研究の文献検索ができる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	スポーツゼミナール(前期)に引き続き、卒業研究に向けて研究に必要な知識、基本的考え方、手法を学ぶ。より多くの栄養学的知識を修得し、食事調査を実体験し、栄養指導のできるスポーツ指導者像やトレーナー像を描けるようになることを本演習の目的とする。	卒業研究のビジョンを明確に述べるができる。一般成人の料理の適量が理解できる。食事調査票の記入や集計ができる。	◎	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	スポーツ科学の研究分野で用いられる主要な測定法について実習を行い、データを取得しデータ処理、プレゼンテーション資料の作成ができるようにする。実験計画からデータ取得、データ解析の過程を経験することにより、卒業研究を自力で進めるための力を身につけさせることを目指す。	身体の形態や機能を数値化するため、実験機材の使用法を身につけること。取得したデータを解析し、その意味を理解するとともに他者に対して説明できること。データの意味を解釈し、プレゼンテーションを行うことができること。	○	◎	
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	日本の武道(武術)および伝承的身体運動文化について、その研究の概略を考究し、各自の研究課題を決定する。	武道(武術)および伝承的身体運動文化に関する研究方法の概要を知り研究課題の設定、史資料収集の方法を学び、それらを系統だてて発表することができる。	◎	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	スポーツ学演習Ⅱでは、前期のスポーツ学演習Ⅰで構築した卒業研究作成の基礎力を基盤に論文作成について本格的に取り組むことを目的とする。各自の問題意識・研究方法・先行研究の確認、文献調査・データ分析等を実施する。なお論文作成上の留意点については、演習中、適宜指導する。ゼミ生のプレゼンテーション、討論を中心に進める。	①各自のテーマにそった研究計画をたて、見直しをもって論文作成に取り組むことができる。②文献調査やデータ分析ができるスキルを身につける。③プレゼンテーションや討論を通じてコミュニケーション能力を身につける。	◎	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	前期のスポーツ学演習Ⅰで学習した内容を基礎としてレポートを作成する。また、卒業研究論文作成の具体的なテーマ選定及びその解決方法について知識を深め、資料(データ)収集については実験・VTR撮影等の方法を実習する。それらを理解した上で研究テーマとなるバスケットボールや他の球技についての知識を深める。レポート作成やプレゼンテーションを通して卒業研究論文作成方法について総合的に学習する。	卒業論文のテーマを選定し、その目的及び研究方法をプレゼンテーションできる。また、データ収集・データ整理の方法を理解し手順を計画することができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	卒業研究を進めていく上で必要な基礎的能力を修得し、自身の卒業研究テーマの方向性を見出すことが、本演習のねらいである。具体的には、収集した資料について討論することにより専門分野への理解を深め、実験方法やデータ処理・評価方法を学習することをおし卒業研究テーマの方向性を明確にしていく。	①健康・体力関連分野の研究概要を知る。②実験方法に習熟する。(形態計測・身体組成測定法・血圧測定法・酸素摂取量測定法など)③研究資料(専門書・研究論文)を収集できる。④資料の概要をまとめて、プレゼンテーションできる。⑤研究データを統計処理できる。⑥卒業研究テーマの方向性を示すことができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	本授業はスポーツゼミナール(前期)で培った心理学なものの見方、臨床学的な事象の捉え方を基に各自が興味・関心のある原著論文を選択しレジュメにまとめて発表することにより、具体的な心理学研究法について学んでいく。また、ディスカッションを通して、他人の考えを理解し自身の考えを深めていくことにより、論理的思考能力をより一層高めていくことを目指す。	1. 自身の興味・関心に根差した文献を探し出すことができる。2. 研究論文をレジュメにまとめ、その内容を理解し、他人にわかりやすく説明することができる。3. 文献購読を通して、心理学的研究の方法論について説明することができる。4. 心理学領域における自身の興味・関心を述べるができる。	◎	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	スポーツゼミナールでは、卒業研究に向けて論文構成の検討方法を身につける。学生の研究テーマに関する資料や関連する文献および研究資料を収集した内容を題材にしてディスカッションする。研究テーマの考察やまとめることを学習する。	1・卒業研究に向けて各自設定した課題論文が作成できる。2・課題論文のプレゼンテーションができる。3・卒業研究のテーマが設定できる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	前期のスポーツ学演習Ⅰの引き続き、卒業研究に向けてを進めていく。また、研究論文作成の流れや研究方法などについて理解し、実際に自身の研究計画を立て発表する。	①研究方法を決め、自身の研究方法について理解できる。②研究の必要性と目的のまとめができる。③研究架設の設定や質問用紙の作成ができる。④研究計画書を作成し、人の前で発表ができる。	◎	○	◎

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	前期に引き続き4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ科学分野での様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。	前期の内容をさらに深めるため、海外の文献などにも触れる。そのなかで、自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	卒業研究論文を作成するための基礎的な準備を目的として論文検索やデータ収集・処理の方法を学ぶ。また、グループごとに立てた目的に対して実験(調査)、分析、発表を行い4年次の卒業研究に向けた予備学習を行う。	スポーツ指導者ならびにアスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を習得することが出来る。また、アスレティックトレーニング領域を中心に自らの興味に関連した卒業研究論文の課題を設定し、実践することが出来る。	○	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	本授業におけるスポーツゼミナールでは、バレーボール競技を中心とした競技特性と基本的な戦術行動を解説し、自身の競技実践を通して競技力向上に関わる実態を把握し課題の解決に向けた実践研究的側面から考究する。	①バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。②収集した先行研究・資料をまとめることができる。③競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。④バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。	◎	○	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	4年次に行う卒業研究に向けて、研究の手法や発表の方法を学ぶとともに、先行研究を調べながら、自分の関心あるテーマについて深く掘り下げていく。心理学や教育に関わる領域を中心に、それぞれの研究の方向性を決めていく。	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。 【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。	○	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	スポーツ科学(サッカー)の分野に適した試合録画・分析法を学ぶ。また、この分野での最先端の知識を身に着けるとともに、学術論文の書き方やプレゼンの方法を学習することを目的とする。	試合録画・分析法を習得することができる。スポーツ科学(サッカー)の分野の最先端の知識を習得することができる。パワーポイントによるプレゼンの方法を習得することができる。学術論文の書き方を学習する。	○	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	卒業研究に取り組むにあたって求められる基礎知識の習得を目指し、実践現場(コーチング、トレーニング)に活かすことのできる人材育成を目的とする。研究領域は、コーチング論・トレーニング学である。ここでは、自身のコーチング・トレーニング実践を通して感じた①素朴な疑問を見つけ、②その疑問の実態を把握し、③疑問に対する仮説を考え、④仮説を立証する研究方法を調べることができるようになることを求める。また、小論文トレーニングを行い、論文を書く力を養成する。	① コーチング論・トレーニング学に関連する先行研究・資料を収集できる。② 収集した先行研究・資料をまとめることができる。③ トレーニング実施上の課題や問題点を明らかにすることができる。	○	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	本授業では、水泳を中心とした科学的サポートや体力測定の方法とその分析方法を学び、4年生における卒業研究に向けた基礎知識を得ることを目的とする。後期には卒業論文テーマ決定に向けて先行研究を調査し、予備実験等を実施することで、今後の研究計画を作成する。	1. 先行研究を自ら調査し、卒業論文へ向けたテーマを設定する。2. 予備実験や予備調査を計画し、実施することができる。3. 実施した内容をまとめ、レポート作成やプレゼンテーションができる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	卒業研究(陸上競技の中でも投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投-を中心とした動作やトレーニング・コーチングについての分野)に取り組むにあたり、前期スポーツゼミナールで決めた研究テーマの概要を明確にする手段を理解する。陸上競技の特性や基本的な競技力向上に関わる動作についての各種測定やアンケート調査等をデータとしてまとめ、報告を行う。前期スポーツゼミナールで決めた研究テーマの概要を明確にする。	(1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身に付ける。(2)投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。(3)投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。(4)収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を示すことができる。	◎	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	研究を進める上での理論的基礎となる発生運動学について個別事例を例証として理解できるようにする。	①運動学的分析方法を個別運動学に置き換えて説明できるようになる。②身体知について事例を上げて説明できるようになる。	◎	○	
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	本ゼミナールでは、スポーツに関連した政策に関する研究テーマを扱う。4年次の卒業論文執筆に向けて、論理的な考え方のトレーニングや研究方法について学ぶ。各自の関心領域に応じたスポーツ政策に関する事例研究を文献調査等により行い、卒業論文のテーマ設定や研究計画を立てる。	論理的に思考し分析する能力や、課題解決に向けた提案能力を高める。スポーツ政策における事例やその効果について、説明することができる。研究計画を立て、卒業論文執筆に向けた準備ができています。	○	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ政策・社会学・マネジメント分野での研究・発表方法を学ぶ。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。	自身に興味のあるスポーツ分野を社会現象として客観的に捉えるその現象が研究分野としてどのように探究されているかを調べるその情報を理解し、プレゼンをしながら、他人と共有するそこからさらに自身の興味を高め、次年度の研究材料を見つける論文作成の方法論について学ぶ。	○	◎	○
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	卒業研究に向けて研究課題をみつけ、研究計画を立てる。あわせて自分の将来設計を考えながら資格取得のサポート、将来のために自分の世界を広げるサポートをする。	研究計画をたてる。自分の世界観を広げる。	◎	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	4年次の卒業研究に向けて、保健体育科教員や部活動指導者の現状や問題点を明らかにし、教員や指導者に必要な資質や能力など、指導現場に必要な要素について理解を深め、自身が設定したテーマの目的や研究方法を明確にすることを目的とする。	・卒業研究のテーマを決定することができる。・自身のテーマにあった研究方法について理解する。・研究計画を立てることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	4年次に取り組む卒業研究に向けて、前期で受講した内容を踏まえ、体育・スポーツ科学分野、特に学校教育現場の事象に関わった様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。	自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。	◎	◎	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3・通年後期	学生アスレティックトレーナーとしての実践的な活動を通して疑問や課題を見つけ、疑問や課題の解決に向けた情報収集と調査及び実験を行う事を目的とする。また、学生アスレティックトレーナー教育やアスレティックトレーナー活動での経験を活かし、授業展開を行います。	学生アスレティックトレーナーとしての活動を通して疑問や課題を見つけることができる。疑問や課題を解決するための情報収集ができる。疑問や課題を解決するための調査や実験を行うことができる。	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。	○ 実験に必要な機器を自由自在に扱うことができるようになること。○ 分析ソフト(キネアナライザー)で多様な分析ができるようになること。○ 仮説に基づいた論理的な検証、思考ができるようになること。○ 卒業論文の作成を通して体系的、理論的な思考ができるようになること。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	大学生活の授業で学んだことを元に、スポーツゼミナールで考えた自らの課題に対し、具体的なテーマを決定し、先行研究を行い、課題解決に応じた方法を用い分析を行う。種々の取り組みは、各回の授業時間だけで終わらせることは難しいため、予復修課題としても資料の収集等、各自の進捗状況に応じて総じて毎回240分程度を目安に、授業外での取り組みを行うこと。	1 教育事象、指導方法等、各自の経験から課題を見出し、研究テーマの立案ができる。2 考えた研究テーマの解決のための先行研究やそれに向けた研究計画を立てることができる。3 研究計画にもとづき各種のデータを取得し、それらを分析することができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	本授業は、自ら考えたテーマに基づいて調査あるいは実験を行ない、得られたデータをもとに自らの考えを導き出し、論文として纏め上げ、また後頭あるいはポスターによる発表を経験する。また、毎回の授業で進捗状況の報告とディスカッションを行なう。	1.研究研究を計画しデータの収集ができる。2.研究発表会でプレゼンテーションができる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学んだ知識・技能を基に、自らの研究テーマを論文にまとめ発表する。	①自らの研究テーマを科学的な方法に従い研究論文にまとめることができる。②論文を明快且つ簡潔に発表することができる。	◎	○	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	3年次のスポーツゼミナールを通じて学んだことを土台として、研究テーマに沿って調査および解析を進めていく。その流れの中で関連する分野(統計学など)の学習も深めていく。他者の研究内容についても関心を持ち、自らのテーマに応用できそうな項目を見出す。	①テーマ設定の合理性を説明できる②論文骨子の構築の妥当性を説明できる③どこまでを明らかにしようとするのかについて説明できる④先行研究との関連性について説明できる	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールの内容を元に研究計画を立案する。計画に基づき調査等を行い、必要に応じてデータ処理を行う等して論文に仕上げていく。	研究論文の構成を正しく理解し、自らのテーマを研究論文にまとめることができる。研究成果をプレゼンテーションできる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツ学演習で学んだ研究計画、実験、データ分析の手法を用い、自らテーマを設定し、卒業論文を作成することを目指す。本演習では研究テーマの設定、文献収集、調査・データ収集、データ分析、論文執筆の一連の過程を独力で成し遂げられるようになる(共同研究は原則として行わない)。	卒業研究のテーマ設定において研究課題の問題点を説明できること。データ収集のための実験を自らの力で遂行することができる。データを分析し、適切な図表にまとめることができる。論文作成に関わる形式、内容を覚え、適切な文章を書くことができる。自ら設定した研究テーマについて、その意味や意義を他者に説明することができる。	○	◎	
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学んだ知識や技能を基に、研究テーマを決め論文を作成する。	1、史資料の収集法を学び実践できる。2、収集した史資料を基に、論文を構成することができる3、構成を自ら考え、考察し論文を作成することができる。4、研究成果をまとめ、発表することができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	本科目では、スポーツゼミナールⅠ、Ⅱにて学んだスポーツ科学分野における研究の基礎知識を基に、卒業研究を実施することを目的とする。卒業研究の過程において、科学的根拠や懐疑的思考、仮説の立て方、リサーチデザインの作成法、統計処理等について学びを深めていくことも本科目の重要課題とする。卒業研究は、「卒業研究の手引き」に則り遂行し、卒業論文および抄録の提出、卒業研究発表会での発表を必須とする。	①自身の卒業研究の実施内容を明確にし、他者に説明することができる。②自身の興味がある研究内容を深く掘り下げ、理解を深化させることができる。③自身の興味がある研究内容と異なる研究にも触れることで、視野を広げることができる。④卒業研究を教員の指導を受けながら遂行することができる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールⅠ・Ⅱで習得した研究の手順及び手法を基礎にして研究を進め、自ら定めた研究課題に関して分析・検討・考察を行い研究を深めていく。また、研究テーマ・論文構成(章立て)・研究方法などについて、毎週の授業での発表と合評を踏まえ、各自の論文作成の進捗状況を確認していく。	①研究テーマの設定、論文構成(章立て)、研究方法等について深めることができる。②見直しをもって、着実に研究を進めることができる。③毎週の授業での発表と合評で研究内容をより充実させていくことができる。	○	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	研究論文の構成とまとめ方を学習し、スポーツゼミナールで学習した内容を元に研究計画を立案する。各受講生は研究のための実験・VTR撮影・測定等の課題解決方法を研鑽し、実際にデータを収集する。	研究論文の構成とまとめ方を理解し、卒業研究論文に着手する。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	研究の進め方の基礎を学ぶ。具体的には、各自の卒業論文作成のための計画を立て、それに基づく資料収集、実験・調査の計画と実施、データ処理、論文作成とそのプレゼンテーションである。また、報告会を実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高めていく。	①卒業論文作成の計画(スケジュール)を立てることができる。②論文作成に必要な資料(文献等)を収集し、整理することができる。③実験・調査計画を立てることができる。④的確なデータ処理ができる。⑤卒業論文を作成し、プレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	3年次までに学んだスポーツ心理学に関する知識を総合して、各自の興味関心のあるテーマに沿った卒業論文の作成及び、口頭発表の方法について習得する。スポーツゼミナールで学んだ基礎知識を活かし、資料の収集や調査、パーソナリティの分析や心理学実験による解析、メンタルトレーニングの実践など、スポーツ事象への心理学的アプローチを通して、研究成果をまとめ論文として完成させる。	1.研究論文の作成手順を理解し自らの関心に沿った研究テーマを設定することができる。2.テーマを探求するための研究計画を立て、実行することができる。3.探求した内容について、研究論文としての体裁を整えて作成することができる。4.自身の研究内容について、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	卒業研究では、スポーツゼミナールで得た知識をもとに卒業研究に向けたテーマを具体化にして、予備実験を実施する。また研究テーマをもとにプレゼンが実施できる知識を身につける。	I)論文の構成 II)研究テーマを題材にしてプレゼンテーション III)研究結果を考察して論文に出来る	○	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツ学演習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基に、研究テーマを探求し、研究計画を立て、実際に研究(調査・実験・分析)を行い、論文に仕上げる。	①自ら研究課題を見つけ、研究計画を立てられる。②自ら見つけた研究テーマ、研究計画を基に実際に研究を遂行する。③データの処理(収集・分析)をし、解析ができるようにする。④研究結果をまとめることができる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り組む。	・自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。 ・自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。 ・他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールの内容を踏まえ、アスレティックトレーニング領域を中心とした研究テーマを各自で設定し、調査・実験・考察を経て論文作成を行う。また、作成した論文の内容をプレゼンテーションする技術を学ぶ。	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し他者に伝える技術を身につけることを目標とする。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールの学習内容を踏まえ、バレーボール競技の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。研究指導を通して先行研究の文献抄読からコーチングや方法学に関する知識を深め、調査、分析、考察を行う。これらを卒業論文にまとめ、卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる。	①バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。②収集した先行研究・資料をまとめることができる。③競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。④バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。⑤スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身につけることができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	データ収集・分析を経て、卒業論文を作成し、それをパワーポイントにまとめた後プレゼンテーションを行う。	学術論文の作成方法を習得する。パワーポイントを使用した学術的なプレゼンテーションができる。	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツ・ゼミナールの学習内容を踏まえ、コーチング・トレーニング論領域に関する研究テーマを設定し、調査・実験・分析・考察を行う力を養成する。また、これらを卒業論文にまとめ、内容を卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる力を養成する。	① 研究計画書を作成することができる② 卒業論文を作成することができる③ テーマに関する先行研究をまとめることができる④ 適切な研究方法を用いてデータを収集・分析することができる	◎	○	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学習した知識と手法を基に自ら研究テーマを設定し、論文を作成する。また、中間発表会及び卒業論文発表会へ向けにプレゼンテーション能力を養う。	1. 各自で設定した研究テーマを基に実験(調査)を実施する。 2. 研究結果を整理し、論文を作成する。3. 作成した論文を基にプレゼンテーション資料を作成する。	○	○	◎

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	3年次までに学んだ陸上競技(特に投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投を中心とした運動法・トレーニング・コーチング)の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。この科目では、論文講読、研究指導を通して、方法学・コーチングに関する知識を深め、文献のまとめ方や学外調査や測定の方法、結果の分析方法、得られた結果のプレゼンテーション方法などを修得する事を目的とする。また、報告会の実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高める。	(1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を実践できる。(2)投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。(3)投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。(4)収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を説明できる。(5)実験やアンケートで得た結果を的確なデータとして処理ができる。(6)研究論文や発表資料を分かりやすく作成することができる。	◎	○	
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学習した内容を基に、個々の研究テーマに応じた専門性の高い内容へ発展させる。	自身の研究テーマの拠りどころとなる研究方法論について理解し、研究の独自性と正当性を説明できる。	◎	○	
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	各自の研究テーマに基づいて研究を進めます。関心領域に応じた事例研究を、文献調査やヒアリング調査等により行い、卒業論文の作成に取り組めます。	研究テーマ、研究計画に基づいて、調査を行い、論文としてまとめることができる。グループ内の他の学生の発表から学び、かつ適切な質問ができる。卒業研究について、わかりやすくプレゼンテーションができる。	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り組む。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会に従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。	・自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。 ・自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。 ・他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学んだ知識を基に、アスレティックトレーナーやスポーツ科学、スポーツ医学の分野に関して、研究計画を作成し、卒業研究を実施する。あわせて、将来に向けての目標設定を行う。	研究課題をみつけ、研究計画をたてることできる。予備実験を実施し、本実験の準備を行うことができる。計画に沿った、行動を行うことができる。発表準備、発表を行うことができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学んだ手法・知識を活用して卒業研究に取り組む。研究テーマを選択し、データの収集、論文執筆を行う。	・研究テーマを設定し、科学的手法に沿って分析できるようになる。 ・論文の構成を覚え、文章を書くことができる。 ・自身の研究内容を発表するためのプレゼンテーション技能を身につける。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	アスレティックトレーニング領域に関する研究テーマを各自で設定し、調査や実験を経て論文作成を行う。また、自身の設定した研究についてわかりやすくプレゼンテーションする技術を学ぶ。	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に分かりやすく伝えることができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年前期	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自らの研究テーマを絞り込み、調査や実験の計画・実施を行う。卒業論文作成に向けて、論文の骨子を作成する。	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。 【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。	○ 実験に必要な機器を自由自在に扱うことができるようになること。○ 分析ソフト(キネアナライザー)で多様な分析ができるようになること。○ 仮説に基づいた論理的な検証、思考ができるようになること。○ 卒業論文の作成を通して体系的、理論的な思考ができるようになること。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	前期の卒業研究で取り組んだことを元に、自らの課題解決に向けた論文執筆を行う。さらに、完成した論文を端的に発表できるようプレゼンテーションの準備を行う。種々の取り組みは、各回の授業時間だけで終わらせることは難しいため、予復修課題としても資料の収集等、各自の進捗状況に応じて総じて各回240分程度を目安に、授業外での取り組みを行うこと。	1 立案した研究テーマを研究計画にしたがい論文にすることができる。2 卒業論文をまとめ、誰もが理解できるようにプレゼンテーション資料にまとめることができる。3 作成したプレゼンテーションを発表することができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	本授業は、自ら考えたテーマに基づいて調査あるいは実験を行ない、得られたデータをもとに自らの考えを導き出し、論文として締め上げ、また後頭あるいはポスターによる発表を経験する。また、毎回の授業で進捗状況の報告とディスカッションを行なう。	1.研究論文を作成する。2.研究発表会でプレゼンテーションができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールで学んだ知識・技能を基に、自らの研究テーマを論文にまとめ発表する。	①自らの研究テーマを科学的な方法に従い研究論文にまとめることができる。②論文を明快且つ簡潔に発表することができる。	◎	○	○

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	前期の進捗状況に基づいて、研究を継続していく。論文を完成させることと、研究発表用資料の作成を行う。他者の研究内容に質疑をできるように、幅広い学びを行う。	①論文の作成ができる②発表用資料の作成ができる③一般の人が聞いても理解できる表現ができる	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールの内容を元に研究計画を立案する。計画に基づき調査等を行い、必要に応じてデータ処理を行う等して論文に仕上げていく。また、中間発表会および卒業研究発表会を行う。	研究論文の構成を正しく理解し、自らのテーマを研究論文にまとめることができる。研究成果をプレゼンテーションできる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツ学演習で学んだ研究計画、実験、データ分析の手法を用い、自らテーマを設定し、卒業論文を作成することを目指す。本演習では研究テーマの設定、文献収集、調査・データ収集、データ分析、論文執筆の一連の過程を独力で成し遂げられるようにする(共同研究は原則として行わない)。	卒業研究のテーマ設定において研究課題の問題点を説明できること。データ収集のための実験を自らの力で遂行することができる。データを分析し、適切な図表にまとめることができる。論文作成に関わる形式、内容を覚え、適切な文章を書くことができる。自ら設定した研究テーマについて、その意味や意義を他者に説明することができる。	○	◎	
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールで学んだ知識や技能を基に、研究テーマを決め論文を作成する。	1、史資料の収集法を学び実践できる。2、収集した史資料を基に、論文を構成することができる3、構成を自ら考え、考察し論文を作成することができる。4、研究成果をまとめ、発表することができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	本科目では、卒業研究を完成させることを目的とする。卒業研究の過程において、科学的根拠や懐疑的思考、仮説の立て方、リサーチデザインの作成法、統計処理等について学びを深めていくことも本科目の重要課題とする。卒業研究は、「卒業研究の手引き」に則り遂行し、卒業論文および抄録の提出、卒業研究発表会での発表を必須とする。	①自身の卒業研究の実施内容を明確にし、他者に説明することが出来る。②自身の興味がある研究内容を深く掘り下げ、理解を深化させることができる。③自身の興味がある研究内容と異なる研究にも触れることで、視野を広げることができる。④卒業研究を教員の指導を受けながら完成させることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	①前期の授業を受け、継続して研究を進める。②卒業論文を完成させ、プレゼンテーション(パワーポイントを使用)の技術を習得する。③毎週、論文作成の進捗状況を確認しつつ、中間発表の準備を行い本発表に備える。	①中間発表(パワーポイント使用)ができる。②卒業論文を完成させる。③本発表(パワーポイント使用)ができる。④抄録を完成させる。	○	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	これまでに収集したデータをもとに研究内容を考察し、研究論文を仕上げる。	研究論文の構成とまとめ方を理解し、卒業研究論文を仕上げる。仕上げた卒業研究論文の抄録を作成する。研究成果を発表ポスターにまとめプレゼンテーションできる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	研究の進め方の基礎を学ぶ。具体的には、各自の卒業論文作成のための計画を立て、それに基づく資料収集、実験・調査の計画と実施、データ処理、論文作成とそのプレゼンテーションである。また、報告会を実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高めていく。	①卒業論文作成の計画(スケジュール)を立てることができる。②論文作成に必要な資料(文献等)を収集し、整理することができる。③実験・調査計画を立てることができる。④的確なデータ処理ができる。⑤卒業論文を作成し、プレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	3年次までに学んだスポーツ心理学に関する知識を総合して、各自の興味関心のあるテーマに沿った卒業論文の作成及び、口頭発表の方法について習得する。スポーツゼミナールで学んだ基礎知識を活かし、資料の収集や調査、パーソナリティの分析や心理学実験による解析、メンタルトレーニングの実践など、スポーツ事象への心理学的アプローチを通して、研究成果をまとめ論文として完成させる。	1.研究論文の作成手順を理解し自らの関心に沿った研究テーマを設定することができる。2.テーマを探索するための研究計画を立て、実行することができる。3.探求した内容について、研究論文としての体裁を整えて作成することができる。4.自身の研究内容について、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	卒業研究では、スポーツゼミナールで得た知識をもとに卒業研究に向けたテーマを具体化にして、予備実験を実施する。また研究テーマをもとにプレゼンが実施できる 知識を身につける。	I)論文の構成 II)研究テーマを題材にしてプレゼンテーション III)研究結果を考察して論文に出来る	○	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	前期の続き。調査データの収集、分析など積極的に研究活動を行い、各自の卒業論文を完成させる。作成された卒業論文を皆の前でプレゼンテーションできる。	①自ら設定した研究課題に対して、積極的に研究活動を行う。 ②収集した研究データについて徹底的に分析・処理し、結果を読み出す。③研究結果に対して文章化、論文を作成する。 ④作成された卒業論文を皆の前でプレゼンテーションする。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り掛かる。前期から取り組んできた研究データをもとに卒業論文の作成に取り組む。	・自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。 ・自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。 ・他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。	◎	◎	◎

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールの内容を踏まえ、アスレティックトレーニング領域を中心とした研究テーマを各自で設定し、調査・実験・考察を経て論文作成を行う。また、作成した論文の内容をプレゼンテーションする技術を学ぶ。	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し他者に伝える技術を身につけることを目標とする。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールの学習内容を踏まえ、バレーボール競技の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。研究指導を通して先行研究の文献抄読からコーチングや方法学に関する知識を深め、調査、分析、考察を行う。これらを卒業論文にまとめ、卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる。	①バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。②収集した先行研究・資料をまとめることができる。③競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。④バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。⑤スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身につけることができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	データ収集・分析を経て、卒業論文を作成し、それをパワーポイントにまとめた後プレゼンテーションを行う。	学術論文の作成方法を習得する。パワーポイントを使用した学術的なプレゼンテーションを行うことができるようになる。	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツ・ゼミナールの学習内容を踏まえ、コーチング・トレーニング論領域に関する研究テーマを設定し、調査・実験・分析・考察を行う力を養成する。また、これらを卒業論文にまとめ、内容を卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる力を養成する。	① 研究計画書を作成することができる② 卒業論文を作成することができる③ テーマに関する先行研究をまとめることができる④ 適切な研究方法を用いてデータを収集・分析することができる	◎	○	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールで学習した知識と手法を基に自ら研究テーマを設定し、論文を作成する。また、中間発表会及び卒業論文発表会へ向けにプレゼンテーション能力を養う。	1. 研究結果を整理し、論文を作成する。2. 作成した論文を基にプレゼンテーション資料を作成する。3. 卒業論文発表会にてプレゼンテーションできる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	3年次までに学んだ陸上競技(特に投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投を中心とした運動法・トレーニング・コーチング)の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。この科目では、論文講読、研究指導を通して、方法学・コーチングに関する知識を深め、文献のまとめ方や学外調査や測定の方法、結果の分析方法、得られた結果のプレゼンテーション方法などを修得する事を目的とする。また、報告会の実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高める。	(1)投擲映像を見ながら、投擲技術について他者に解説することができる。(2)投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。(3)収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を示すことができる。(4)実験やアンケートで得た結果を的確なデータとして処理ができる。(5)研究論文や発表資料を分かりやすく作成することができる。(6)卒業論文を作成して、プレゼンテーションができる。	◎	○	

スポーツ学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	卒業論文を完成させる。研究の核となる内容についてまとめ発表する。	研究内容の独自性と限界について検討し、研究の独自性を主張できるようになる。	◎	○	
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	各自の研究テーマに基づいて研究を進めます。関心領域に応じた事例研究を、文献調査やヒアリング調査等により行い、卒業論文の作成に取り組みます。	研究テーマ、研究計画に基づいて、調査を行い、論文としてまとめることができる。グループ内の他の学生の発表から学び、かつ適切な質問ができる。卒業研究について、わかりやすくプレゼンテーションができる。	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り掛かり、卒業論文を完成させる。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。	・自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。 ・自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。 ・他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールで学んだ知識を基に、アスレティックトレーナーやスポーツ科学、スポーツ医学の分野に関して、研究計画を作成し、卒業研究を実施する。あわせて、将来に向けての目標設定を行う。	研究とは何かを理解する。物事には二面性以上の見方があるということを理解する。発表準備、発表ができる。文章として論文執筆ができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールで学んだ手法・知識を活用して卒業研究に取り組む。研究テーマを選択し、データの収集、論文執筆を行う。	・研究テーマを設定し、科学的手法に沿って分析できるようになる。 ・論文の構成を覚え、文章を書くことができる。 ・自身の研究内容を発表するためのプレゼンテーション技能を身につける。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	アスレティックトレーニング領域に関する研究テーマを各自で設定し、調査や実験を経て論文作成を行う。また、自身の設定した研究についてわかりやすくプレゼンテーションする技術を学ぶ。	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に分かりやすく伝えることができる。	◎	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として幅広い幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系的基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
専門演習科目	卒業研究	4・通年後期	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自らの研究テーマを絞り込み、調査や実験の計画・実施を行う。前期から行ってきた資料収集や調査結果をまとめ、論文作成を行う。	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。 【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。	◎	◎	◎
スポーツ実技科目	体操(体づくり運動を含む。)	1・前後	体操(体づくり運動)は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成されている。自他の心と体に向き合って体を動かす楽しさを味わい、心と体をほぐす運動や体力を高めるための運動の行い方を理解する。	1.目的に合った基本的な運動が指導できる。2.ラジオ体操、ストレッチ体操の運動効果について説明ができる。3.2人組、グループでお互いに工夫・協力して運動を楽しむことができる。	◎		○
スポーツ実技科目	器械運動	2・前後	器械運動(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)の技の基本技術と指導法について学習する。それぞれの技の運動構造を理解し、系統的・段階的に技を習得していく。また、安全に配慮し練習環境の工夫や補助法についても正しく理解する。	1. 各器械種目の基本技ができるようになる。2. それぞれの技の基本技術を理解する。3. 補助法について理解し、適切に実践できるようにする。	◎		○
スポーツ実技科目	陸上競技A	1・前後	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、遠くに跳ぶ、遠くに投げるための原理・原則が存在する。本授業においては、短距離走、ハードル走、走り幅跳び、の各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。	① 実施する各種目の技能(記録)を一定水準まで身に付けることができる。② 実施する各種目の技能を高める方法を理解し、記録に挑戦できる。③ 実施する各種目の初心者指導法を理解し、説明することができる。	◎	◎	○
スポーツ実技科目	陸上競技B	2・前後	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、遠くに跳ぶ、遠くに投げるための原理・原則が存在する。本授業においては、短距離走、リレー、走り高跳び、砲丸投げの各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。	①実施する各種目の技能(記録)を一定水準まで到達させる。②実施する各種目の技能を高める方法を理解し、記録に挑戦できるようにする。③実施する各種目の初心者指導法を理解し、説明できる。	◎	◎	○
スポーツ実技科目	水泳	2・前後	クロールおよび平泳ぎを中心に、続けて長く、または速く泳ぐための基本的技術および知識を習得する。水の特性を知り、水中で効率的に推進力を得る方法について、実技だけでなく視覚的教材を用いて理解を深める。さらに、基本的な泳法と水の特性に関する知識を応用して、水中・水上における事故防止のための安全管理についても紹介する。	①クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの4泳法を習得する。②水上安全に関する知識を高める。③速く泳ぐことについては50mクロールと50m平泳ぎを対象とし、男子でクロール50秒以内、平泳ぎ65秒以内、女子でクロール55秒以内、平泳ぎ70秒以内を目標とする。④長く泳ぐことについては3分間泳を対象とし、男子で150m以上、女子で130m以上を目標とする。	◎	○	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系的基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
スポーツ実技科目	バスケットボール	1・前後	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。バスケットボールにおける基礎技術である(シュート、パス、ドリブル)を学習する。また、基礎技術の習得とともに集団技術(防御から攻撃、攻撃から防御)を学習する。そのためには、バスケットボールのフォーメーション(スクリーンプレー、ポストプレー、ナンバープレー)を学習し、バスケットボールにおける特性を理解しながら各ポジション(ガード、フォワード、センター)に分けてゲームを通じて理解を深めて学習する。	1. バスケットボールの技術特性およびボールを扱う楽しさや相手との駆け引きの楽しさを学習しながら基礎技術を習得できること。2. 学校教育および社会教育の現場においてバスケットボールの指導するにあたり必要な基礎的な知識、技術を習得できること。3. 個々の技術を上げるための練習方法、チーム戦術を習得し指導方法を学ぶ。	◎	○	◎
スポーツ実技科目	バレーボール	2・前後	バレーボールは、競技スポーツとしてだけでなく生涯スポーツとしても広く親しまれラリーゲームを通して高いコミュニケーション力が必要であることを理解し、他者との情報を共有しながら競技する重要性を学習する。また、バレーボールを実践する上で、必要な体力や動作分析を行い、運動の分析や観察力を養う方法についても学習する。	①バレーボール実践について初心者に教育的な原則を段階的に実技指導ができる。②他者との関わり合う技能を高め、チームで連携する技術を学び実践できる。③競技スポーツ、生涯スポーツとしてバレーボールの特徴を理解し、実践できる。	○	◎	◎
スポーツ実技科目	サッカー	1・前後	本授業では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(多種のパスやシュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。さらには、サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めていく中で、リーダーシップやスポーツマンシップの向上を目指す。	1) サッカーの基礎的技術を習得し、試合中に使えるようになる 2) サッカーの守り方や攻め方を含めた戦術を理解する	◎	○	
スポーツ実技科目	サッカー	1・後	本授業では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(パス、シュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めて行く中でリーダーシップやスポーツマンシップの向上、ルールの理解を目指す。	1) 「止める」、「蹴る」、「運ぶ」の基本的技術を実践できるようになる。2) 個人戦術、グループ戦術の基本を理解することができるようになる。3) 基本的なルールを理解し、説明できるようになる。	◎	○	
スポーツ実技科目	ハンドボール	3・前	ハンドボールは「走・跳・投」からなっており、これらを支える基礎体力の養成に十分役立つ教材である。また、比較的小さなボールを器用な手で扱えるため、誰でも容易にプレーできる特徴を持っている。本授業では、ハンドボールの歴史・特性・ルール及び審判法を実技の中で概説し、ゴール型ボールゲームとしての攻撃方法及び防御方法を指導する。	・ボールの扱いやパス、シュートといった基本技術を習得する。 ・基本技術をコンビネーションプレーへと応用できる。 ・ルールを理解し、ゲームに応用できる。	◎	○	○
スポーツ実技科目	ラグビー	3・前	ラグビーワールドカップ2019日本大会は、世界中から高い関心と注目を集めて大成功を収め、日本ラグビーは大躍進を遂げた。今後国内においては青少年の育成さらには生涯スポーツとして、競技人口が増えることが期待される。そこで本科目においては、ラグビーのスポーツ特性を根底に据え、基本動作を中心にラグビーについての実践的なプレイの獲得を目的とする。さらにラグビー特有の楕円型ボールやルールを使ったゲーム作りを通して、ラグビーの魅力を理解すると共に、将来の実践指導に役立てる。	①ラグビーの基本的な競技特性について理解する。②パス・キック・キック・コンタクト・ラン等の基本プレイを獲得する。③複数人グループ内での個々の役割を主体的に作り出し、ゲームに活かす。④安全なコンタクトプレイのやり方を獲得する。⑤将来のラグビー実践指導において安全で魅力的な指導が出来るようになる。	○	○	◎

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
スポーツ実技科目	ソフトボール・野球	3・前後	ソフトボールは投げる、打つ、走る、捕るなどの基本的運動が多く含まれるスポーツである。本授業では、ソフトボールの基本的な技術や戦術を説明し、その練習方法を紹介する。また、ゲームを通して、そのゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。	ソフトボールの基本的技術や戦術、練習方法を習得すること。集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになること。	◎	○	○
スポーツ実技科目	テニス	3・前後	プロテニスプレーヤーとしての経験を活かし、授業を展開する。テニスは、複数の打法を組み合わせテラテラを行うスポーツである。従って、多数の動作を習得する必要があり、動作の分析や、運動の仕組みを学習する。一方、対戦相手が必ず必要な競技特性から、強度のコントロールによって、生涯スポーツとしても楽しめることを理解し、テニスを通じたコミュニケーション及び、仲間との協調性など、テニス特有の他者との関わりを学ぶことを目的とする。	到達目標は初心者にわかりやすく、テニス技術を教えることができるようになること。① テニスの打法全てを習得し、テニス動作の原則を理解し説明出来ること。② ルールを理解し、試合及び審判が出来るようになること。③ 生涯スポーツであるテニスの特徴を理解し、健康促進につながるテニスを理解すること。④ 対象者に沿った、試合形式や練習を提案、立案、出来るようになること。	◎	○	◎
スポーツ実技科目	バドミントン	2・前後	バドミントンは生涯スポーツに適した種目の一つであり、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、バドミントンの基本的な技術の向上を図り、競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法の習得を図る。また、戦術やルールについて理解し、中学や高校における体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について学ぶ。	①バドミントンの特性を理解し、説明できる。②基本的技術や練習方法、ゲームにおける攻撃・防御の方法を実践できる。③戦術やルール・マナーについて理解し、ゲームを楽しむことができる。④一連の技術指導や試合の運営方法を実践できる。	◎		
スポーツ実技科目	ダンス	2・前	ダンスは身体運動による表現であり、身体を通して自己の内なる感情を表現したりイメージや創造性を深めることで、心豊かな人間形成につなげていくねらいがある。また音楽(リズム)に合わせて全身を動かすことでの爽快感や楽しさを味わい心身を解放していくことはストレスを分散し、“心の健康”に大きく関連してくる。本授業では多様な動きを体験し、自己の身体の動きの要素を広げていくこと。習得した動きや新しく創造した動きを基にダンス創作を行い相互に発表しあうことで、ダンスを通して他者との関わりを深める。	1. 音楽に合わせて自由にのびのびと身体を動かすことができる。2. さまざまな種類のダンスの基本的な動きを習得する。3. ダンス作品を工夫して創作し、発表することができる。4. 他のグループの作品を鑑賞し評価することができる。	◎	○	○
スポーツ実技科目	剣道	2・前後	日本の代表的な身体運動文化である剣道の特性を理解し、伝統的な修練により正しい剣道の学び方や指導法を習得する。さらに、合理的身体操作の観点から剣道技術をとらえる着眼点を身につける。	剣道を正しく学ぶことによって、技能の向上だけでなく、指導法、審判法、そして礼法などを体得する。	○	○	◎
スポーツ実技科目	柔道	2・前後	柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解したうえで、授業を行う。柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなど)、投げ技(手技、腰技、足技)、固め技(抑え技)の習得に取り組む。また、武道必修化に対応できるように、柔道の授業を安全に行うための指導法、審判規定審判法についても解説する。	柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解し説明できるようになる。礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなどを理解し、投げ技につなげていく。特に受け身においては、事故ケガ予防の観点から自在に受け身をとれるようになる。投げ技と固め技については、安全に自由練習ができるようになるだけではなく、中学校、高等学校において授業を行う事ができる技能を身につける。更に審判規定を理解し審判ができるようになる。	○	◎	○

スポーツ学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。
スポーツ実技科目	レクリエーション実技	3・前	様々なレクリエーション活動を実施し、その楽しさを体験することを通じて、コミュニケーションの促進や活動を効果的に展開するための方法、対象に合わせた内容のアレンジ方法などを学習する。こうした学習内容を踏まえて、レクリエーション活動の指導プログラムを立案、実施出来るようになることを目指す。	①レクリエーション活動の楽しさを体験、共有することができる。 ②レクリエーション活動の基本的な展開方法を習得する。③対象や目的に合わせたレクリエーション活動プログラムを立案・実施することができる。	○	◎	◎
スポーツ実技科目	エアロビックダンス	2・後	エアロビックエクササイズ(有酸素運動)は生活習慣病の予防・改善に有効であるとされる運動形態であり、その中でもエアロビックダンスは特にトータル的な身体づくりの運動としてこれからますます重要視されてくる運動形態です。本授業では、現代を取り巻く健康問題をヒントに、その改善対策としての運動の位置付けを理解し、エアロビックダンスの特徴やその有効性、今後の可能性を学んでいきます。エアロビックダンスの良さを体感しながら、その指導ができるようになるための技能を習得していきます。	エアロビックダンスの基本となる動作を習得し、正しく動くことができる。身ぶり・手振り・声かけなど指導者として必要とされる指導技能を習得する。エアロビックダンスの楽しさを知ることができる。エアロビックダンスベーシックインストラクター(ADBI)資格取得に向けたスキルを身につけることができる。	◎	○	○
スポーツ実技科目	キャンプ	全・前期集中	恵まれた自然環境と施設の中で、キャンプ指導者としての自然におけるマナーや人との関わり、野外活動の基礎から応用を体得し、さらに指導・立案・計画方法等や、さまざまな指導場面での実践方法を学ぶ。	①キャンプの意義や目的および技能を理解し、説明・実践することができる。②自然と人との関係、指導者の役割および安全管理について理解し、説明・実践できる。③対象に応じたキャンププログラムの企画・運営・評価のあり方を理解し、説明・実践できる。④キャンプの基礎技術・応用技術を理解し、説明・実践できる。	◎	◎	○
スポーツ実技科目	マリンスポーツ【水上】	全・前期集中	現代の日本社会において、子どもの発育発達段階における体験活動の重要性や多様な生涯スポーツ種目へのニーズが高まっている。それらの社会的ニーズに対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しむ安全に楽しめるように、基礎的知識と技術と身につけることを目標として「到達目標」に記載内容を実施する。	○海岸より出だし、目標物を回航して戻ってくる技術を習得する。○海洋スポーツを安全に実施、指導する際のスキルを身につける。○野外スポーツに必要な天候による実施(活動)の是非に関する判断能力を身につける。	◎	◎	◎
スポーツ実技科目	マリンスポーツ【水中】	全・後期集中	現代の日本社会において、子どもの発育発達段階における体験活動の重要性や多様な生涯スポーツ種目へのニーズが高まっている。それらの社会的ニーズに対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しむ安全に楽しめるように、基礎的知識と技術と身につけることを目標として「到達目標」に記載内容を実施する。	○海洋スポーツを安全に実施、指導する際のスキルを身につける。○野外スポーツに必要な天候による実施(活動)の是非に関する判断能力を身につける。○オープンウォーターダイバーの資格を取得することができる。	○	◎	◎
スポーツ実技科目	スノースポーツ	全・後期集中	スノースポーツの代表であるスキーとスノーボードを取り上げ、基礎技術を学び中級斜面を爽快かつ安全に滑走する技能を修得する。さらに、班別活動や集団生活を通して社会的スキルを身につけることも目指す。	①スキー・スノーボードの基礎技能を修得し、中級斜面を安全に滑走することが出来る。②スキー・スノーボードのダーンの仕組みと基礎技術について説明出来る。③安全な滑走のためのゲレンデにおけるルール・マナーについて説明出来る。	◎	○	○